ふたごじてんしゃ® × OGK Giken

幼児2人同乗用三輪電動アシスト自転車 ETWB-001

取扱説明書（お客様用）

この度は当社の製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

取扱い注意事項	ご使用の前には、この取扱説明書を必ずお読みください。読んだ後は必ず保管してください。 （自転車自転車販売店の方はお客様へ取扱いについて必ずご説明のうえ、お渡しください。） メンテナンスする際にも必要です。点検・整備のときは自転車販売店にご持参ください。

- ご使用前に「使用上のご注意（P3～20）」を必ずお読みください。
- 品質保証期間は1年です。領収書の「お買い上げ日・自転車販売店名」の記入をよく確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。また、わからないことがあった時は直ぐに確認できるようにしてください。
- 本製品を他人に譲るときは、本取扱説明書を一緒にお渡しください。
- 自転車販売店での説明を必ず受けていただき、使い方がわからないときは、自転車販売店にご相談ください。

ふたごじてんしゃとは

「外出が大変」という悩みを解決したい。親子で「ふたごじてんしゃ」に乗ることで、子どもと会話を楽しみながらゆっくりお出かけしたり、移り変わる四季に気づいたりしてほしい。そんな想いで開発したのが『ふたごじてんしゃ』です。

■ふたごも年子も！お子さまを 2 人一緒に乗せられる

一般的な三人乗り自転車に乗せられるお子さまの年齢は、前は 4 歳未満、後ろは小学校入学前までです。ふたごじてんしゃなら後ろにチャイルドシートを2台取付けられるので、小学校入学前までのお子さまを2人一緒に乗せられます。

■歩道も走れる普通自転車サイズ

日常使いを考慮し、日本の道路事情にあわせた車体サイズです。歩道や自転車専用道路も走れます。
※道路交通法に沿ったご使用をお願いします。

■三輪だから安定感がある

三輪なのでふらつきやすい漕ぎ出し時や、停まろうとする時も安定するので安心です。二輪に不安がある方や運転が苦手な方にもおススメです。お子さまの乗せ降ろしも安心してできます。
※「絶対に転倒しない自転車」ではありません。

■お子さまがチャイルドシートを卒業しても使える

お子さまがチャイルドシートを卒業したら、バスケットを取付けてそのままご使用いただけます。三輪ならではの安定感で荷物が運べます。

はじめに

- ●お買い求めいただいた三輪自転車は、電動アシストシステムが付いた三輪自転車です。普通の自転車とは異なった部分がありますので、本書をよくお読みの上、正しく、安全、快適にお乗りください。
- ●走行・ご使用の際は、必ず利用者の責任で道路交通法及び各自治体の条例・公安委員会の定める規則の確認と遵守してください。ご不明な点があれば、最寄りの警察署及び地方公共団体にお問い合わせください。
- ●この三輪自転車は、自転車散歩、買い物などの日常生活用として設計されています。新聞配達など、業務用として使用しないでください。また、日本国内以外の交通法規には適合していませんので、日本国内以外でご使用にならないでください。
- ●お子さまを事故から守るためにヘルメットを必ず着用させてください。ヘルメットを着用させない場合の事故は重傷になりますが、着用させた場合は軽傷で済む確率の高い事が報告されています。又、運転なさる方もヘルメットを着用してください。（※令和5年4月1日から道路交通法にて、全ての自転車利用者について乗車用ヘルメットの着用が努力義務となりました。）
- ●万一の事故に備え、対人・対物賠償保険に加入されることをお薦めします。
- ●必ず、自転車販売店で防犯登録の申請手続きを行ってください。（法令で義務付けられています。）
  防犯登録制度は、駅前等の放置自転車問題の改善や自転車の盗難を予防することを目的としており、万一、盗難被害にあったり、遺失した場合に自転車が早期に発見され、戻ってきやすくなります。防犯登録は、自転車販売業者が、当該自転車の所有者を明らかにするために必要な事項を記載した登録カードを作成するとともに、登録証（シール）を当該自転車に貼付するシステムです。
- ●保証書は「自転車販売店名、お買い上げ日」などの記入を確かめて自転車販売店からお受け取りください。
- ●本書に使用しているイラストは操作方法や構造、仕組みなどを分かりやすくするため、現物とは多少異なる場合があります 。
- ●品質向上・改良の為予告無く仕様・デザインを変更する場合がありますので予めご了承ください。

■他人に譲渡されるときの注意

この自転車を他人に譲るときは、本取扱説明書と品質保証書を一緒にお渡しください。防犯登録された自転車を譲渡するときは、防犯登録の抹消登録、再登録の手続きが必要です。ただし、保証につきましては本製品を最初に購入された方のみに有効です。譲渡された場合には保証は継続されません。

目次

はじめに …… P 2
使用上のご注意 …… P 3～20
交通ルールとマナー …… P 21～23
各部の名称 …… P 25～26
安全のための点検と整備 …… P 27～32
充電方法 …… P 33～36
バッテリーについて …… P 37～38
操作パネルの操作方法と表示 …… P 39～42
各部の取扱方法と注意事項 …… P 43～49
使用条件 …… P 51～52
ふたごじてんしゃの構造と特徴 …… P 53～54
電動アシスト自転車の特徴 …… P 55～57
お子さまと乗るには …… P 58
駐輪場について …… P 59
手入れについて …… P 60
乗る前に覚えよう!「ス・前・パ」 …… P 61～64
各部の調整方法 …… P 65～69
注油について …… P 70
運搬について …… P 71
長期保管後の使用について …… P 72
交換部品（補修部品について） …… P 72
廃棄について …… P 72
譲渡について（他人に譲渡されるとき） …… P 72
故障かなとおもったら …… P 73～75
エラー表示コード …… P 75
マーク …… P 77
防犯登録/自転車保険加入 …… P 78
ETWB-001主要諸元表 …… P 79
リヤチャイルドシートについて …… P 80
専用リヤキャリヤへのバスケットの取付けについて …… P 81
品質保証規定 …… P 83～84
点検・整備チェックリスト …… P 85～86

使用上のご注意

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■警告表示

警告表示は危険度・重要度の程度に応じて次の区分で表示しています。これらを守らないと事故につながったり、ケガをしたり、自転車の破損などの原因になります。

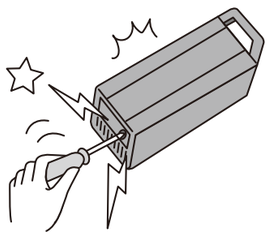
⚠ 警告	取扱いを誤った時に、使用者が死亡もしくは骨折などの重症を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	取扱いを誤った時に、使用者が傷害を負う危険が想定されるとき及び、物的損害の発生が想定される内容です。
禁止	安全上、してはいけない内容及び行為を表す内容です。
強制	使用者に必ず実行していただく内容です。

⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

バッテリーについて

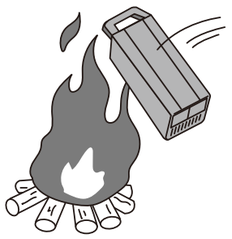
禁止 電極に金属などを接触させない

発熱、発火、破裂の原因となる恐れがあります。ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管しないでください。



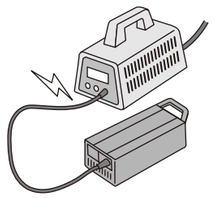
禁止 火への投入、加熱をしない

発熱、発火、破裂の原因となる恐れがあります。



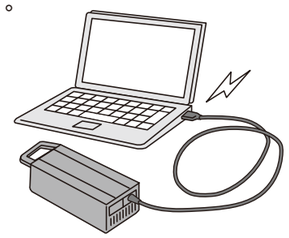
禁止 当社電動アシスト自転車専用の充電式バッテリーのため、他の機器やアダプターを接続しない

発熱、発火、破裂の原因となる恐れがあります。



禁止 専用の充電器以外は使用しない

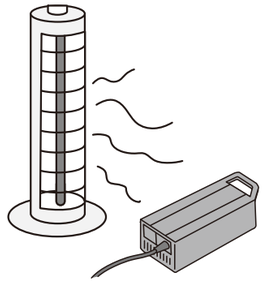
発熱、発火、破裂の原因となる恐れがあります。



⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

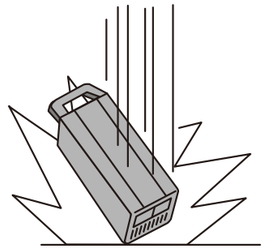
禁止 火気のそばなど高温の場所で充電・使用・放置しない

発熱、発火、破裂の原因となる恐れがあります。



禁止 落下させない

発熱、発火、破裂の原因となる恐れがあります。



禁止 再生、リサイクルバッテリーは使用しない

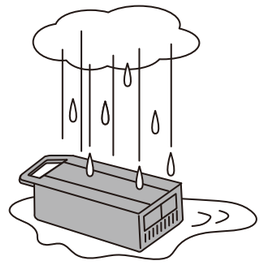
発熱、発火、破裂の原因となる恐れがあります。

禁止 傷がついたまま使用しない

ケースなど、破損したまま使用すると液漏れの恐れがあり、目に入った場合失明する恐れがあります。また、水の浸入により、発煙・発火の恐れがあります。

禁止 水を入れたり、水中に投下したりしない

電極部分から水が入ると発熱、発火、破裂の原因となる恐れがあります。バッテリー内部に明らかに水が浸入した場合は、使用を停止し、自転車販売店で点検を受けてください。



禁止 大雨などで自転車本体（バッテリー部）が水につかったときは、使用しない

不意にアシストが停止することがあり、バランスを崩し、転倒によるケガの恐れがあります。本自転車は生活防水性能を備えていますが、大雨などによりバッテリー内部に水が入ったときは使用を停止し、自転車販売店で点検を受けてください。

強制 確実に自転車に装着されているか確認する

走行中に脱落し転倒したり、足の上に落下したり、ケガの恐れがあります。必ず手前に引いて外れないか確認してください。

⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

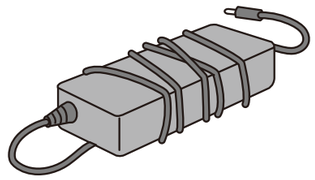
充電器について

禁止 当社電動アシスト自転車バッテリーの充電以外の使用は絶対にしない

バッテリーの液漏れ、発熱、破裂によるケガの原因となります。

禁止 電源コードを充電器本体に巻きつけて保管しない

電源コードやプラグが断線し、傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因となります。

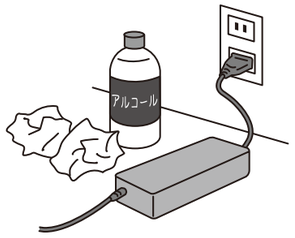


禁止 充電中はカバーをしたり、上に物を置いたりしない

内部が発熱し、火災の恐れがあります。

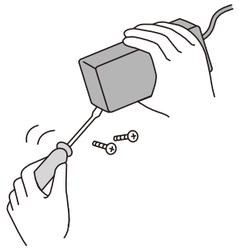
禁止 充電中は引火の恐れがある物を近づけない

スパークし、火災や爆発の原因となります。



禁止 分解、改造は絶対にしない

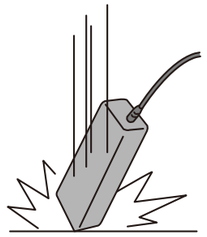
充電時、バッテリーの液漏れ、発熱による火災の恐れがあります。



禁止 以下のようなことをしない

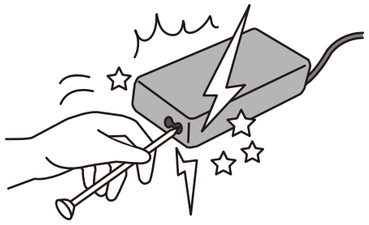
- ●衝撃を与えること
- ●落下
- ●水ぬれ
- ●高湿度な場所での使用

※浴室・洗面所や水がかかる場所での使用は発熱、発火、感電の恐れがあります。水にぬれた場合には、内部基板に水が浸入していることがありますので、使用しないでください。



禁止 電極を金属でショートさせたり、ボタン・コイン電池を接触させない

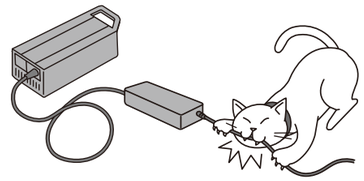
発熱、発火、感電の恐れがあります。



⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

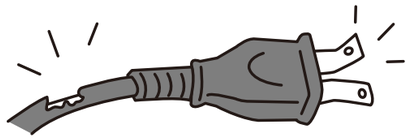
禁止 幼児やペットが触れる場所に放置しない

幼児やペットがコードを傷め、感電・故障・火災の原因となります。



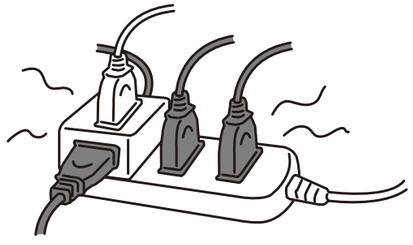
禁止 電源コードや電源プラグ・ケースを破損するようなことはしない（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど）

傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因となります。電源コードなど単体での修理・交換はできません。傷んだ場合、自転車販売店にご相談ください。



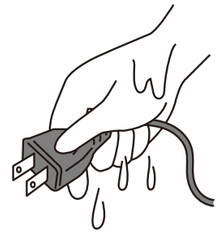
禁止 コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、家庭用の交流100V以外での使用はしない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因となります。



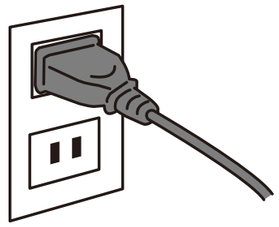
禁止 ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしない

感電の恐れがあります。



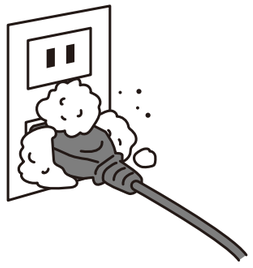
禁止 電源プラグは根元までキチンと確実に差し込む

接触不良による感電や火災の原因となります。



禁止 電極や電源プラグのほこりなどは定期的に取る

ほこりがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。



禁止 充電中に次の異常を感じたら充電を中止する（異音・異臭・煙の発生など）

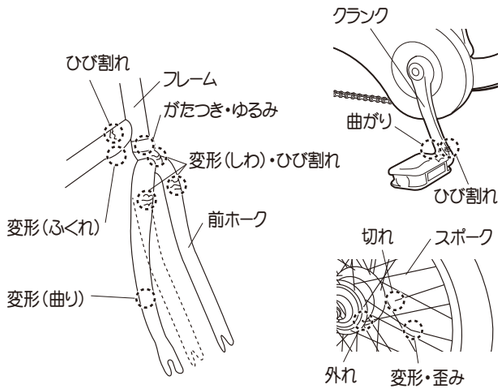
火災や爆発の原因となります。充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。

禁止 改造・分解・ハブステップの装着および指定箇所以外の調整はしない

正しく動かなかったり部品が外れたりして事故・ケガの恐れがあります。また、歩行者に危害を及ぼす恐れのある突出物を自転車に装着することは禁止されています。

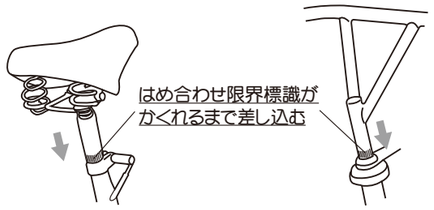
禁止 フレーム・前ホークやクランク、ペダルなどの部品に、変形やひび割れ、ねじのゆるみ、パンクなど異常があるときは乗らない

事故・ケガをおこす恐れがあります。異常を発見したら使用せずに、すぐ自転車販売店にご相談ください。



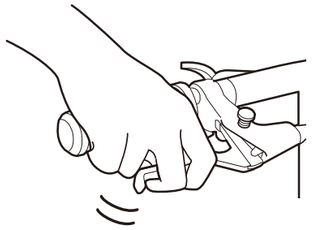
禁止 ハンドルやサドルのポストは限界標識が見えた状態で固定しない

ハンドルやサドルのポストの折れや抜けにより事故・ケガの恐れがあります。



禁止 ブレーキがきかない状態で乗らない

止まれずに衝突して事故・ケガの恐れがあります。



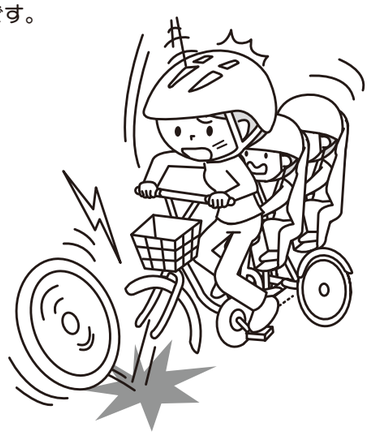
禁止 ブレーキの制動面（ブレーキシュー等）に油をつけない

ブレーキに油がつくとブレーキがきかなくなり、事故・ケガの恐れがあり危険です。

⚠ 警告（危険です!乗る前に必ず点検してください。異常を発見したらそのまま使用せず、必ず自転車販売店に修理を依頼してください。）

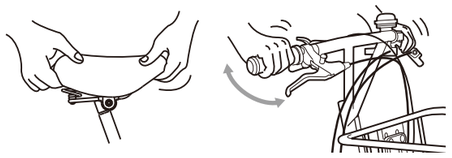
禁止 前車輪・後車輪の固定が充分でない状態で乗らない

走行中に外れて事故・ケガの恐れがあり危険です。



禁止 ハンドル・サドル・グリップの固定が充分でない状態で乗らない

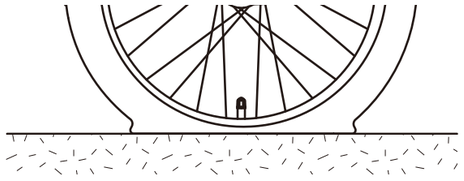
操縦できなくなり、事故・ケガの恐れがあります。



禁止 タイヤの空気圧が充分でない状態で乗らない

タイヤに充分空気を入れてから乗る。自転車がこわれて事故・ケガの恐れがあり危険です。（空気圧が低いと早くタイヤが減り、パンクもしやすくペダルが重くなります。）

→ 30 ページ参照



強制 衝突や転倒したときは必ず点検する

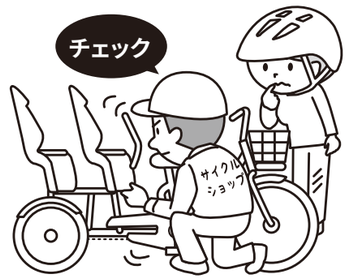
異常を発見したら使用せずに自転車販売店に相談してください。

■次のような場合は外観上異常が無くても自転車販売店に相談してください。

●強い衝突や段差の乗り上げ・落下や転倒したとき。

●ペダルやクランクに強い衝撃が加わったとき（欠損によるケガの恐れがあります。）

●走行中に異常な音がしたとき。



強制 本書に記載の取扱い方法を守る

間違った取扱いをすると事故・ケガの恐れがあります。

強制 交通ルールを守る

交通ルールを守らないと事故でケガをしたり、他の人にケガを負わせる恐れがあります。

→ 21 ～ 23 ページ参照

⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

強制 乗り方を充分習得するまでは公道では乗らない

練習は空き地などの安全な場所で周囲の安全を確認してから行ってください。

- ●電動アシスト自転車は普通の自転車より軽く発進できます。普通自転車と同じようにペダルを踏むと、電動アシストが作動して普通自転車以上に加速するので、驚いて転倒や衝突の恐れがあります。
- ●練習は空き地などの安全な場所で周囲の安全を確認してから行ってください。
- ●慣れるまでは平坦路で練習してください。転倒し、ケガをする恐れがあります。
- ●後輪が 2 輪のため、一般の自転車と車幅の感覚が異なります。ポールや狭い道では充分に注意してください。
- ●練習の時はアシストモードを「1」で発進しましょう。

禁止 溝・凸凹の激しい路面では走らない

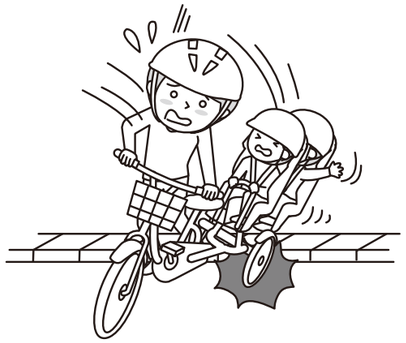
車体が傾き、ハンドルをとられて転倒し、事故の恐れがあります。自転車から降りて押してください。

強制 押し歩き時の注意

- ●狭いところ、路面の凸凹、傾斜によりバランスを崩して反対側に転倒することがあります。
- ●ハンドルを大きく切った際に前輪が前または後ろに意図しない回転をして転倒することがあります。
- ●ハンドルをしっかり握り、ブレーキがすぐにかけられるようにしてください。
- ●同乗幼児の動きに注意して、充分なスペースがあることを確認してください。

禁止 大きな段差は登ったり降りたりしない（自転車から降りて押すこともしない）

車体が大きく傾き、バランスをくずして転倒する恐れがあります。

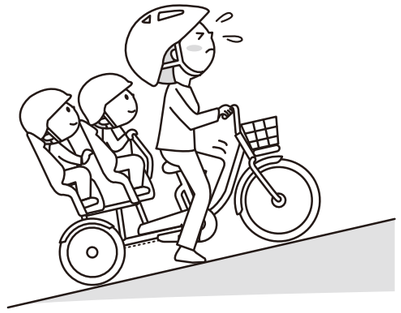


禁止 片側に傾斜している道路では乗りはじめない

安定が悪くハンドルをとられたり、転倒してケガの恐れがあります。

禁止 上り坂の途中では乗りはじめない

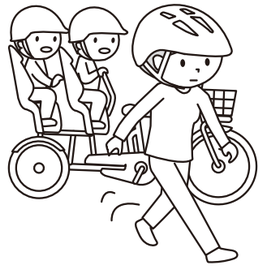
発進できず、転倒や事故の恐れがあります。



⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

禁止 幼児を乗せたまま、駐輪したり自転車から離れない

転倒してケガの恐れがあります。



禁止 フロントチャイルドシートの取り付けや自転車の改造は絶対にしないでください。

禁止 お子さまだけで乗り降りさせない

転倒や落下してケガの恐れがあります。

禁止 サドルと専用リヤキャリヤの間に手や物を置かない

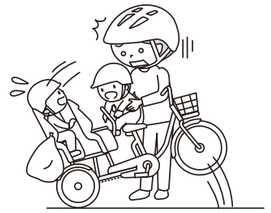
手を挟んでケガをしたり、スイングができずバランスをくずす恐れがあります。

禁止 お子さまをリヤチャイルドシートに2人乗せるときは、後方のリヤチャイルドシートから乗せない

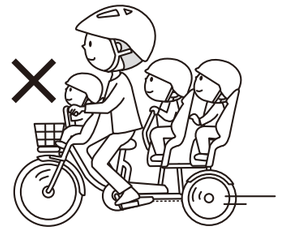
前車輪が浮き上がって、転倒したりバランスをくずしてケガの恐れがあります。

お子さまを降ろすときは後方のリヤチャイルドシートから降ろしてください。

お子さまの体重が異なる場合は、体重の重いお子さまを前に乗せてください。

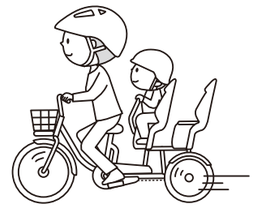


禁止 4人乗りはしない（道路交通法で禁止）



強制 お子さまが1人の時は前席に乗せる

重心が中央に寄り前車輪の浮き上がりを防ぎます。



強制 乗せ降ろしの時はヘッドレストに注意する

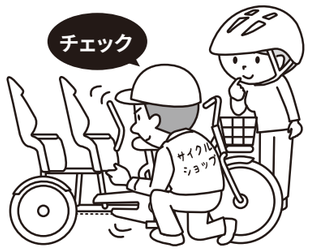
頭や顔をぶつけることがあります。

⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

強制 乗る前の日常点検・初回点検・定期点検は必ず実施する

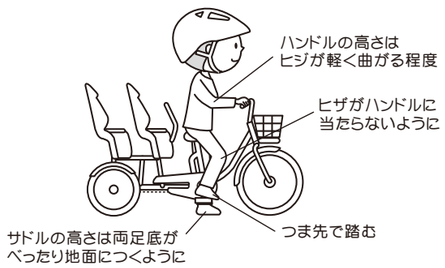
長く使っているとネジがゆるんだり調整がズレたりしてきます。必ず実施してください。

→27~32ページ参照



強制 自転車を身体に合わせる

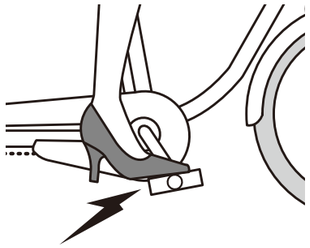
正しい姿勢で乗車できるよう、自転車販売店で調整してください。バランスをくずしたときに、自転車をささえきれず転倒する恐れがあります。



強制 ブレーキレバーは余裕をもってにぎれること

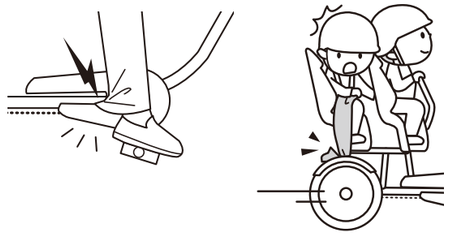
強制 厚底靴やかかとの高い靴、サンダルなどすべりやすい靴で乗らない

ペダルから足が外れ、転倒する恐れがあります。



強制 車輪やチェーン・ギヤに巻き込まれやすいものを接近させない（長いスカートやマフラー、すその広がったズボン、傘、ペットのリード等）

車輪やギヤに巻き込まれ、車輪がロックして転倒によるケガの恐れがあります。



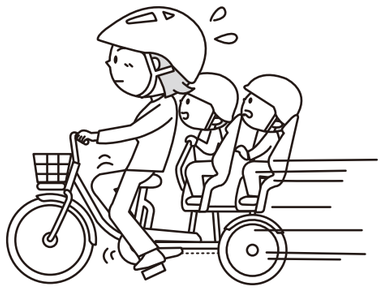
⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

禁止 けんけん乗り禁止

けんけん乗り（片足をペダルにのせながら助走し、反動をつけて乗車すること）は、後車輪が運転者とぶつかり転倒や事故の恐れがあります。ペダルを強く踏めば、モーターがそれに応じて強いアシスト力を出すため、乗り込む際に自転車が飛び出し危険です。必ずサドルにまたがって発進してください。

禁止 発進時または低速走行時は、ペダルを強く踏み込まない

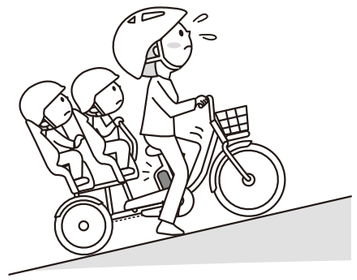
思わぬ急発進やアシストの働きにより転倒や衝突事故によるケガのおそれがあります。強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。



禁止 発進時や、きつい上り坂走行時は重い変速位置を選ばない

禁止 バッテリー残量が少ない状態のときには、上り坂で乗車しない

アシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるケガの恐れがあります。

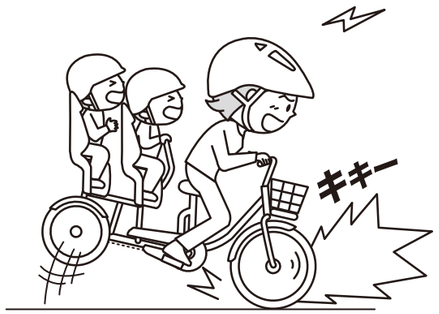


禁止 走行中、手元スイッチの操作をしない（電源の入切、アシストモードの切り替え、ライトの操作など）

上り坂や発進時、誤操作などでアシストが切れたときに、バランスを崩したり、片手運転になり転倒によるケガの恐れがあります。必ず停止して、操作をしてください。

禁止 走行中にパーキングブレーキをかけない

前車輪がロックし転倒によるケガや破損の恐れがあります。

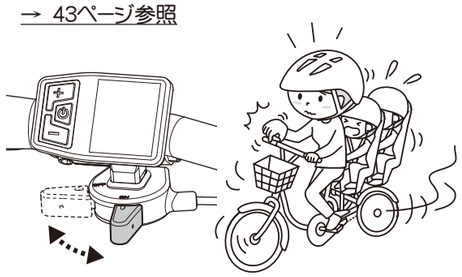


⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

禁止 走行中にスイングストッパーレバーを操作しない

自転車から降りた状態で操作をしてください。破損の恐れがあります。

→ 43ページ参照



禁止 ペダルを踏み込みながら変速をしない

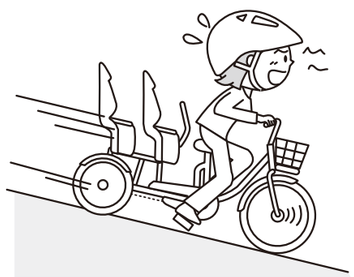
一気に変速すると、ショックが大きく、転倒によるケガの恐れや故障の原因となります。1段ずつ変速してください。

強制 次のようなときは特にスピードを抑える

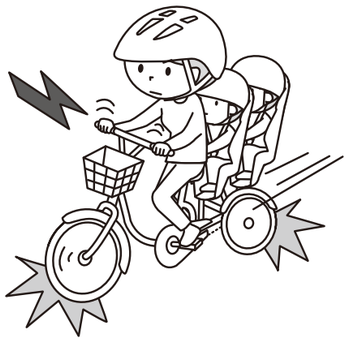
バランスをくずして転倒する恐れがあります。

- ●片側に傾いている道でハンドルをとられるとき。
- ●旋回（小回り）するとき。
- ●上り坂の登頂後。
- ●下り坂およびカーブ。
- ●凸凹のある路面。
- ●段差を登ったり降りたりするとき。

5km/h以下（歩く程度）の速さで走るか、降りて押す。



強制 ブレーキをかけるときは以下のことを守る



- ●いつでもブレーキレバーを握れるようにして乗る。
- ●ブレーキは先に後ブレーキをかけてから前後ともブレーキをかける。
  （片方だけかけるとスリップして危険です。）
- ●急ブレーキをかけないでいいように、常に前方に注意してスピードをひかえめにする。
- ●雨天時はブレーキがききにくくなるので、ゆっくり走行する。

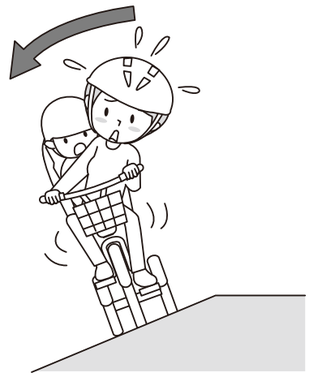
禁止 ジグザグ走行、急旋回はしない

左右車輪の片輪が浮き上がって転倒したり、ブレーキの効きが弱くなり、事故の恐れがあります。

⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

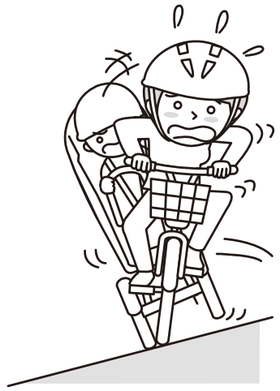
禁止 スイングロック状態で走行しない

スイングストッパーは練習時のみご使用ください。常時使用すると破損の恐れがあります。

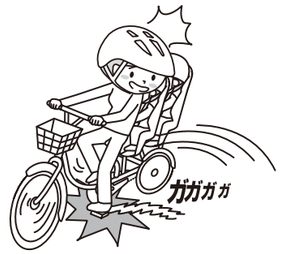


強制 片側に傾斜している道路での走行には充分注意する

片輪のみ浮き上がると空回りし、安定が悪くハンドルをとられたり、バランスを崩して転倒によるケガの恐れがあります。



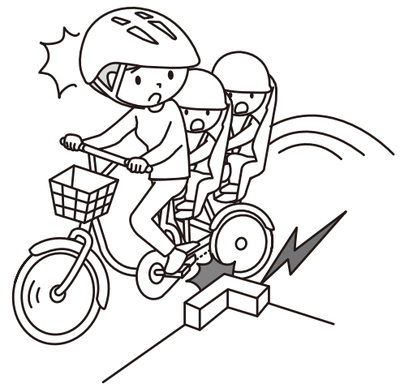
強制 カーブを曲がるときは以下のことを守る



- ●カーブを曲がっている間は、ペダルを止める。（車体が傾いている側のペダルが下になっているとペダルが路面に当たるので危険です。）
- ●カーブで急ブレーキをかけない。（横滑りして危険です。）
- ●急旋回しない。
- ●カーブを曲がるときは手前で充分スピードを落とす。

強制 内輪差に注意して曲がる

脱輪や後車輪をぶつけて、転倒によるケガや破損の恐れがあります。



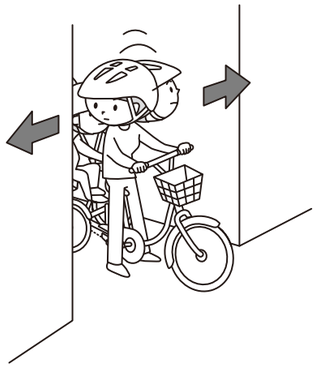
強制 無理に曲がらない

曲がるときに回転半径が大きくなり、転倒する恐れがあります。

⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

強制 見通しの悪いところでは、必ず一時停止して安全を確保する

見通しの良いところまで低速で進み、周囲の確認を行ってください。事故による重大なケガの恐れがあります。

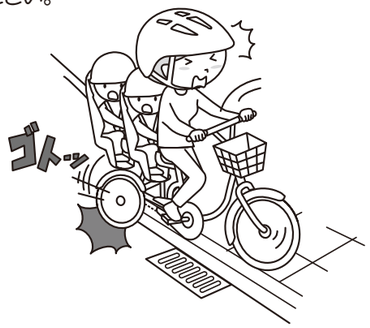


強制 止まっている時は、前と後ろの両方のブレーキをかけ、ペダルに足を乗せない

ペダルに足を乗せると、電動アシストが作動する場合があります。止まっている時は、前と後ろの両方のブレーキをかけ、ペダルには足を乗せないようにしてください。

強制 狭い場所や、歩道への乗り降りに注意する

脱輪や後車輪をぶつけて、転倒によるケガや破損の恐れがあります。歩道への乗り入れの際は、スピードを落とし歩道に対して垂直に進入してください。

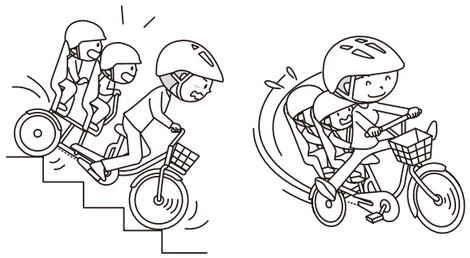


禁止 大きな段差を越えない

車体が干渉し破損する恐れがあります。

禁止 乱暴な乗り方はしない

階段や縁石の乗り降り、アクロバット的な乗り方は自転車がこわれて事故・ケガや破損の恐れがあり危険です。



⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

禁止 大人の2人乗りをしない（道路交通法で禁止）

ハブステップも使用禁止です。操縦が不安定で転倒したり、自転車事故・ケガや破損の恐れがあります。

禁止 片手運転、手ばなし運転をしないまた、傘立ては使用しない

危ない時によけたり止まることができず、事故・ケガや破損の恐れがあります。必ず両手でハンドルをにぎってください。また、傘をさしたり、傘立てを使用しての運転は傘が風を受けてあおられて、事故を起こす恐れがあるだけでなく、傘が他の通行者や物に当たる恐れがあります。雨や泥はねを防ぐにはレインウエアを着用してください。

禁止 歩行者に危害を及ぼす恐れのある突出物は装着をしない

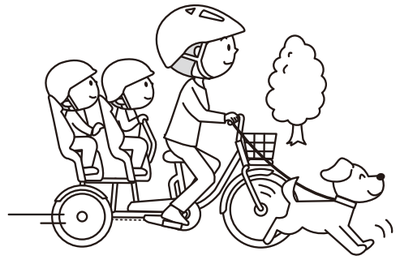
事故・ケガや破損の恐れがあります。

強制 夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認

前照灯はバッテリーを電源としていますので、バッテリー残量が減少しアシスト走行ができなくなった場合、しばらくすると消灯します。事故・ケガの恐れがありますので、前照灯が消灯した場合は、自転車から降りて押してください。無灯火での走行は道路交通法で禁止されています。

禁止 犬などを引いて乗らない

バランスをくずして転倒し、事故・ケガや破損の恐れがあります。



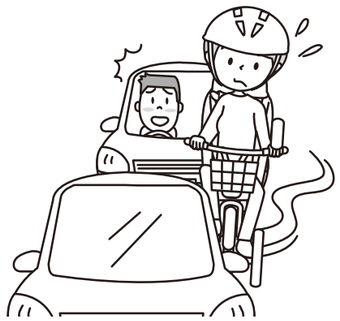
禁止 手やハンドルに物をさげたり、傘などを車体に差し込んで乗らない

車輪にものが巻き込まれたり、バランスをくずして転倒し、事故・ケガや破損の恐れがあります。

⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

禁止 自動車が渋滞しているときは、その前に割り込んだり、車の間をぬって前へ出ない

自動車に接触し事故を起こす恐れがあります。

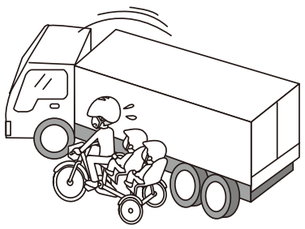


禁止 自動車やオートバイのすぐ後ろに続いたり、それにつかまって走らない

事故を起こす恐れがあります。

強制 交差点を通るときは左折車に巻き込まれないように注意する

事故による重大なケガの恐れがあります。

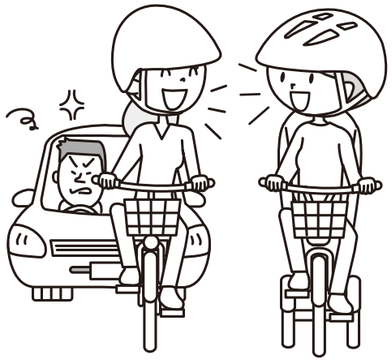


強制 車の横を走るときは開くドアや人の飛び出しに注意する

事故による重大なケガの恐れがあります。

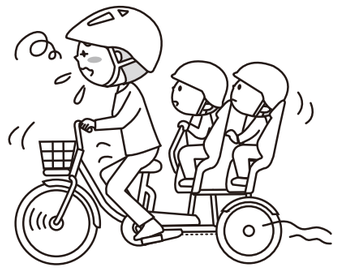
禁止 他の自転車と競争したり並んで走らない

事故を起こす恐れがあります。



禁止 飲酒後や疲れが激しいときは乗らない（道路交通法で処分の対象になります）

事故・ケガの恐れがあります。



禁止 走りながら携帯電話をかけたり操作しない（道路交通法で禁止）

片手運転と前方不注意により事故を起こす恐れがあります。

⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

禁止 ヘッドホンやイヤホンを使用して乗らない

周囲の音が聞こえにくくなり、事故を起こす恐れがあります。

禁止 タバコを吸いながら乗らない

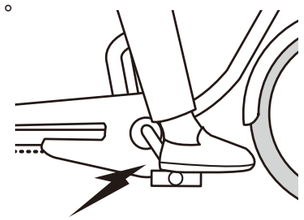
煙や吸い殻により、他人に迷惑がかかります。また、タバコの火で他人に火傷をおわせる恐れがあります。片手運転と前方不注意により事故を起こす恐れがあります。

禁止 飲食をしながら乗らない

片手運転と前方不注意により事故を起こす恐れがあります。

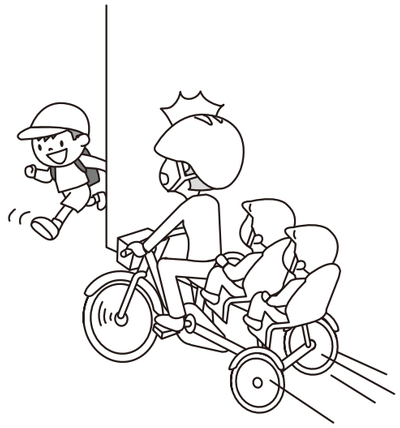
禁止 土踏まずやかかとでペダルをふまない

つま先が前車輪や前どろよけに接触し車輪に巻き込まれて事故を起こす危険があります。また、どろよけなどの部品を破損する恐れがあります。



強制 学校や公園が近くにあるときは子どもの飛び出しに注意する

事故による重大なケガの恐れがあります。



禁止 荷物を積むときは次のことしない

- 積載条件（荷物の重さや大きさ）を超える荷物を積まない。
- 荷物は必ず積載装置（バスケット）に積む。
- 荷物は片寄らないように荷ひもでしっかり固定し歩行者の迷惑にならないようにする。
- 荷物でリフレクタが隠れないようにする。
- フロントバスケットの荷物は高さ・前後・左右ともにバスケットからはみ出さないようにする。

禁止 荷物を載せたまま自転車を押し歩きするとき、ハンドルを大きく切ったり、傾けたりしない

ハンドルを大きく切った際に、自転車が左右に傾きやすくなり、荷物の重みで転倒によるケガの恐れがあります。傾斜面や路面の凹凸がある所では、特に起こりやすくなります。

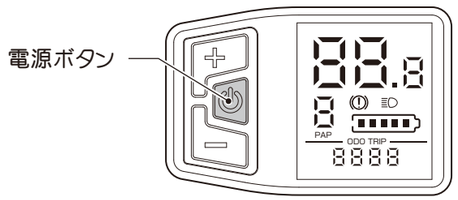
⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

強制 三輪自転車は後部の車体幅が広いので充分注意して使用する

押して歩くときに、後どろよけが足のかかとに当たってケガの恐れがあります。

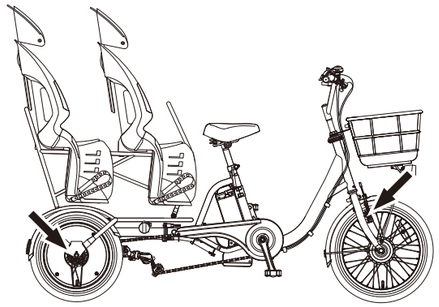
強制 自転車から降りるまえに、操作パネルの電源を切る

液晶表示部が消灯し、電源が OFF になることを確認してください。



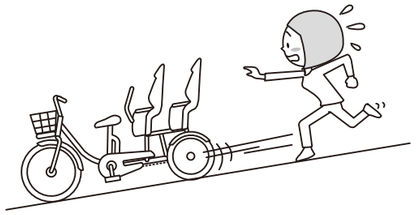
強制 走行直後は、ブレーキ部に手を触れない

ブレーキ部が高温になり、やけどの原因になります。



禁止 坂道・斜面に駐輪しない

ひとりでに動き出したり、思わぬ事故につながることがあります。



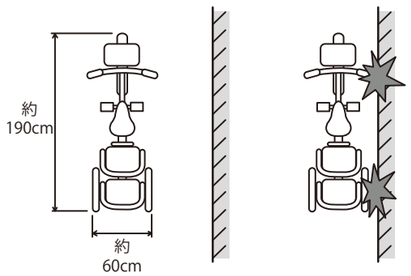
強制 駐輪時はパーキングブレーキを必ずかける

スタンドがないので、ひとりでに動き出して事故の恐れがあります。

→ 45ページ参照

強制 駐輪場では車体の大きさに注意すること

隣の自転車や壁に干渉する恐れがあります。



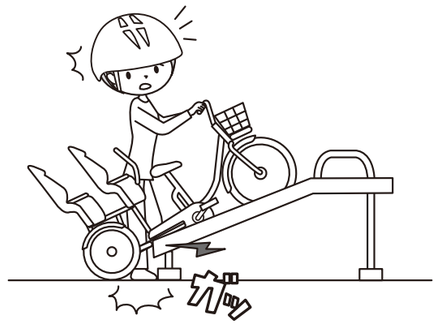
⚠ 警告（安全のために必ずお守りください!）

強制 駐輪レール使用時は高さと幅に注意すること

車体が干渉し破損する恐れがあります。

- ●最低地上高は約14cmです。使用できない駐輪レールもあります。
- ●タイヤ幅は4.5cmです。駐輪レールの溝幅はそれ以上が必要です。

→59ページ参照

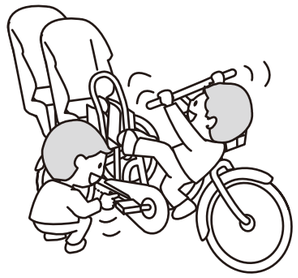


禁止 走行目的以外に使用しない

踏み台など走行目的以外に使わない。転倒してケガの恐れがあります。

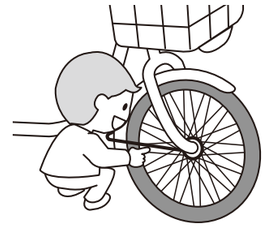
禁止 自転車の周りでお子さまを遊ばせない

事故による重大なケガの恐れがあります。



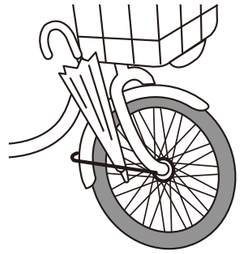
禁止 回転部分に手や足を入れない

お子さまがそばにいるときは、特に注意する。はさまって重大なケガの恐れがあります。



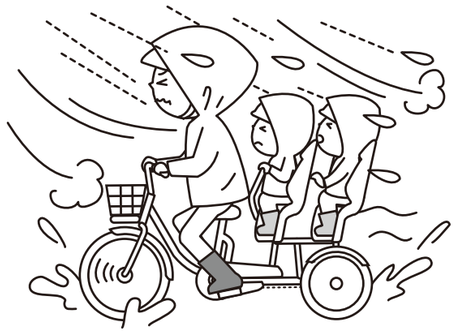
禁止 スポークの間に物を入れたり、はさんだりしない

車輪にはさまって転倒の恐れがあります。



禁止 風・雨・雪がひどいときや視界が悪いときは無理に乗らない

自転車から降りて押して歩く。



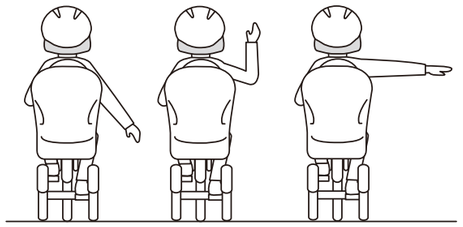
交通ルールとマナー

ケガや迷惑をかけないためにも、交通ルールやマナーを守りましょう。

ここに掲載していることは、交通ルールとマナーの一部です。走行・ご使用の際は、必ず利用者の責任で道路交通法及び各自治体の条例・公安委員会の定める規則の確認と遵守をしてください。ご不明な点があれば、最寄りの警察署及び地方公共団体にお問い合わせください。

1.自転車の正しい乗り方

●発進するときは、見通しのきく道路の左側端で、後方と前方の安全を確かめる。
●右折、左折をするときは、早目に合図する。
●停止するときは、安全を確かめて停止の合図を行い、道路の左側に沿って停止してください。



停止　左折　右折

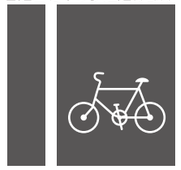
2.自転車の通るところ

●車道を通るときは、車道の左側端に沿って通行する。
●自転車は路側帯を通ることができますが、歩行者の通行に大きな妨げになるところや、白二本線の表示のあるところは通れません。
●自転車歩道通行可の標識のある歩道は、つぎの方法により通行することができます。
・道の車道寄りの部分を徐行する。
・歩行者の通行を妨げる恐れのある場合は一時停止する。
●自転車道のあるところでは、自転車道を通る。
●道路を横断するとき、近くに自転車横断帯があれば、自転車横断帯を通る。
自転車横断帯がなく近くに横断歩道があるときは、自転車を押して横断歩道をわたる。

自転車および歩行者専用

自転車専用

普通自転車の歩道通行部分

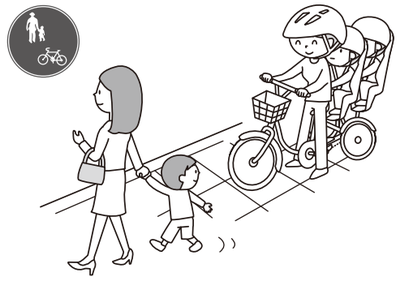


自転車横断帯

3.自転車が通行できる歩道、路側帯を通るときの注意

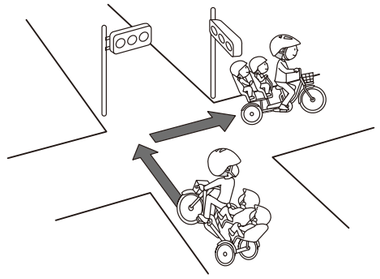
（信号や交通整理などが行われているところを含む。）

●歩行者の通行を妨げない。
●お子さま、身体の不自由な人が歩いているときは、一時停止か充分速度を落とす。

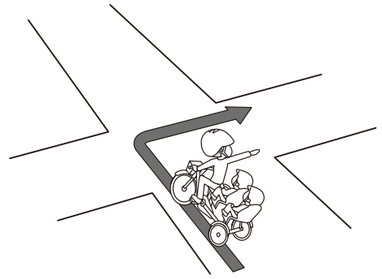


4.交差点の通り方

●右折の方法
信号のあるところ。



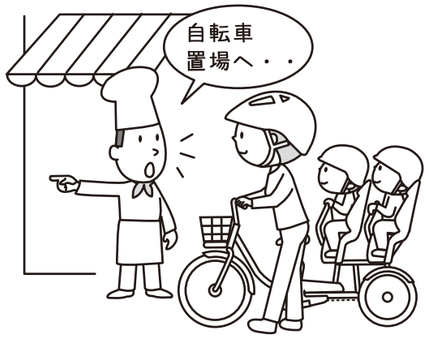
信号がなく交通整理がおこなわれていないところ。



●自転車横断帯があるときは、その自転車横断帯を通る。
●自転車進入禁止標識のある交差点では、左側の歩道に乗り入れて自転車横断帯を通る。

5.自転車を駐輪するときの注意

●自転車を駐輪するときは、パーキングブレーキとカギを必ずかけ歩行者や車の通行の妨げにならないようにする。



電動アシスト自転車・一般自転車は、道路交通法上「 軽車両 」となります。違反をすると、道路交通法（2015 年 6 月 1 日施行）の罰則を受けることがあります。

違反行為を 2 回以上摘発されると、自転車運転者講習を受講する必要があります。受講命令に従わなかった場合、罰金が科せられます。
※自転車運転者講習制度の詳細については、警察庁ホームページ（https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/bicycle/info.html）を参照ください。

自転車運転者講習の対象となる危険行為

- ●信号無視
- ●遮断踏切立入り
- ●指定場所一時不定停止等
- ●歩道通行時の通行違反
- ●制動装置（ブレーキ）不良自転車運転
- ●酒酔い運転
- ●通行禁止違反
- ●歩行者用道路における車両の義務違反（徐行違反）
- ●通行区分違反
- ●路側帯通行時の歩行者の通行妨害
- ●妨害運転（交通の危険のおそれ・著しい交通の危険）
- ●交差点安全進行義務違反
- ●交差点優先者妨害
- ●現状交差点安全進行義務違反
- ●安全運転義務違反

自転車横断帯標識

横断歩道
自転車横断帯標識

一時停止標識

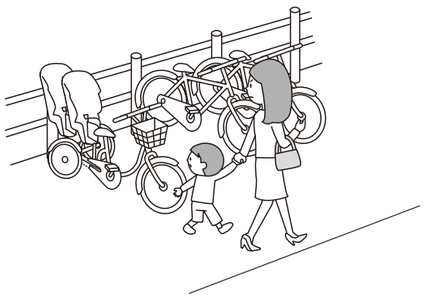
乗ったあとは

決められた場所に駐輪してください。

- ●駐輪するときは、ほかの人に迷惑にならないよう、決められた場所にとめましょう。
- ●盗難防止のため、必ずカギをかけましょう。
- ●前車輪の馬蹄錠は、盗難予防に絶対的なものではありません。ワイヤ錠を使用するなど、二重施錠をお勧めします。

自転車放置禁止

- ●自転車の放置は、ほかの人に迷惑をかけるばかりでなく、環境悪化の原因となります。絶対にやめましょう。

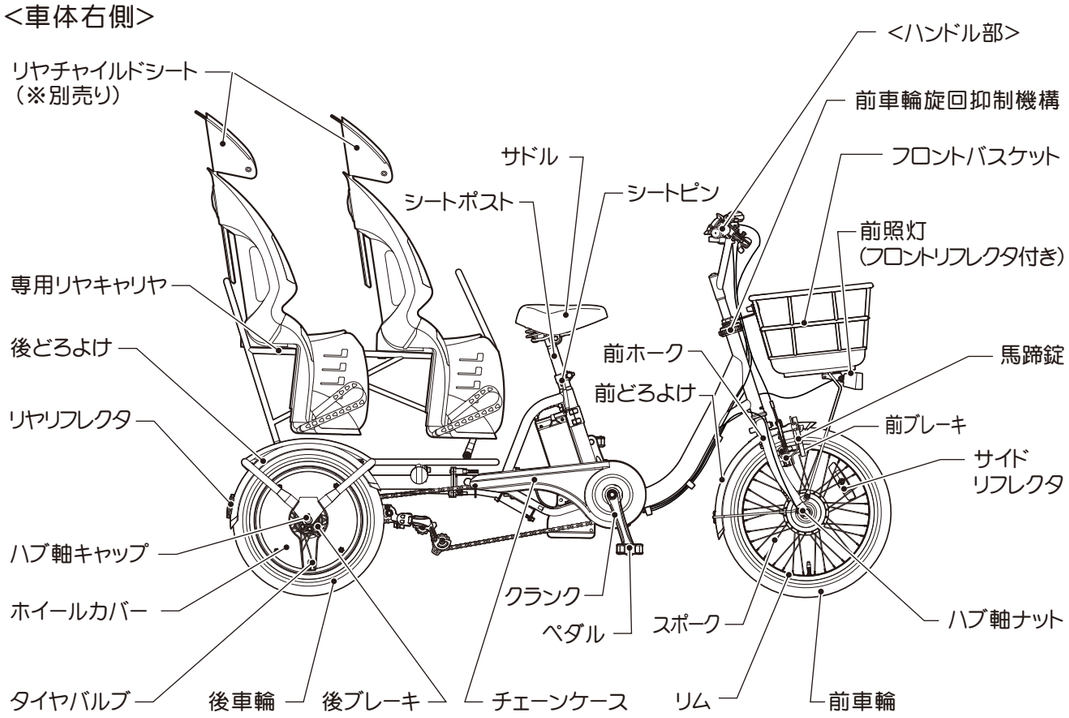


memo

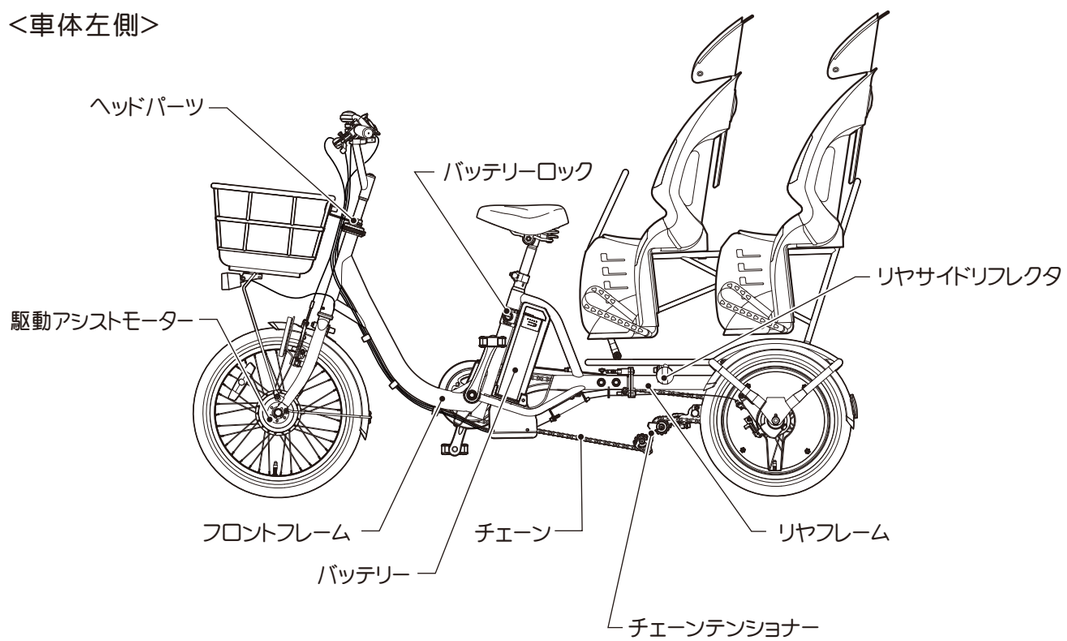
各部の名称

■自転車本体

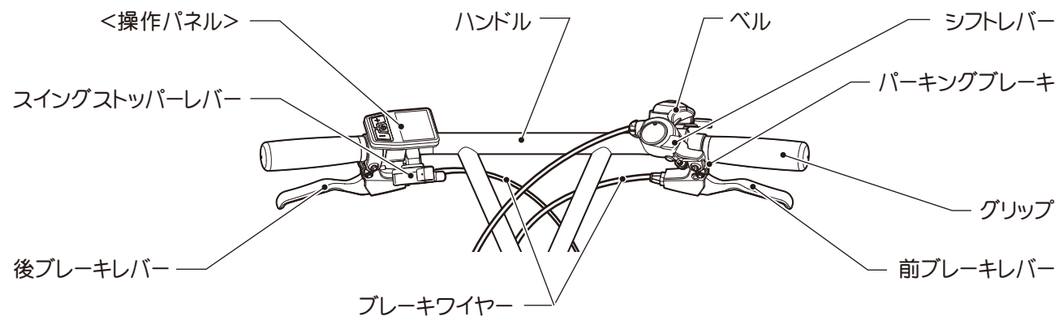
<車体右側>



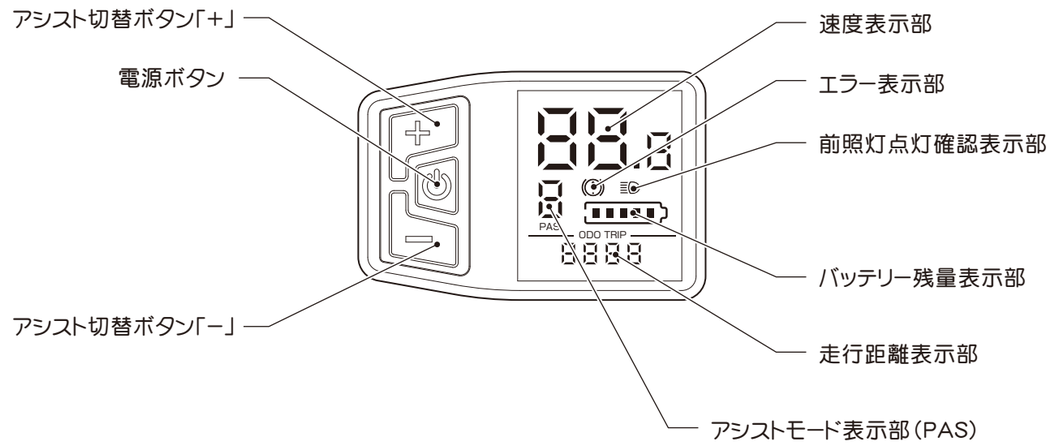
<車体左側>



<ハンドル部>

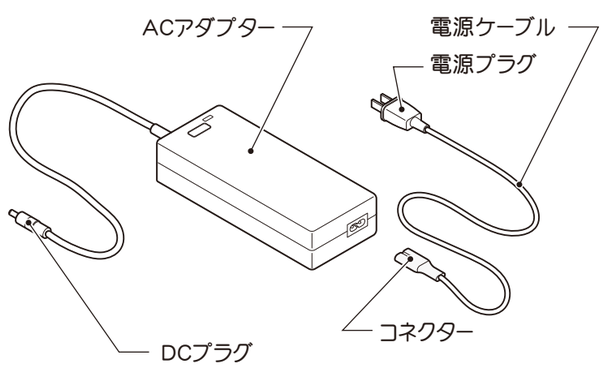


<操作パネル>



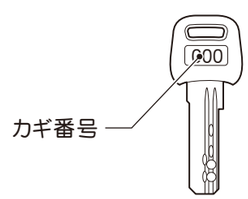
■付属品

<専用充電器>



■カギ

バッテリーロックと前車輪の馬蹄錠の両方に使用します。



●カギは紛失しないように大切に保管し、カギ番号は必ず控えておいてください。

スペアキーの購入方法
→ 81ページ参照

安全のための点検と整備

安全にご乗車いただくため、乗るまえに点検と調整を実施する習慣を付けましょう。

強制	乗る前の「日常点検」と「初回点検」「定期点検」を必ず実施してください。 ●点検と調整は電源を切った状態で行ってください。 ●未組立、未調整および調整不良の自転車は使用しないでください。 ●わからないとき、異常がある場合は自転車販売店にご相談ください。

「ふたごじてんしゃ」は一般の自転車と構造、機能など乗車感が異なり、操縦が難しい場合がございます。公道で使用する前に必ず安全で平坦な場所で充分練習を行ってください。
また、不具合・異常につきましては、先ず自転車販売店にご相談、ご連絡ください。
次に「ふたごじてんしゃ」を長く安全に使用いただくために、「日常点検」について紹介していきます。

日常点検の目的

自転車を常に点検して適正な状態を維持することは、使用者の責任と義務でありそのために日常点検は欠かせないものです。自転車が適正でないと、修理費用が発生したり自身の安全や、日常のスケジュールが乱れるのはもちろんのこと、本人や周囲の方々も巻き込んでしまう恐れがあります。一時の誤りが一生の後悔にならないよう、自転車を日常点検することは大事なことです。

日常点検の内容

「日常点検」は基本的には、使用者が自転車のまわりをまわって、目視による「外観チェック」と簡易操作による「作動チェック」を「日常点検」として実施いただきます。くわしくは「日常点検の方法」と「ふたごじてんしゃ　点検・整備チェックリスト」の点検項目に従いご乗車前に必ず実施ください。
（点検を実施するにあたり、自転車自転車販売店よりアドバイスを受けながら実施されることが望ましいです。）

定期点検・調整

「定期点検・調整」とは長く安全にご愛用いただくために自転車販売店（自転車安全整備士）が行う点検・整備のことです。
本車両の「各部の調整方法」は65~69ページに記載しています。

【日常点検】

●乗る前に必ず点検し、安全を確かめてから乗ってください。
異常を発見したら、使用を中止し自転車販売店へ問い合わせを行ってください。

【初回点検】

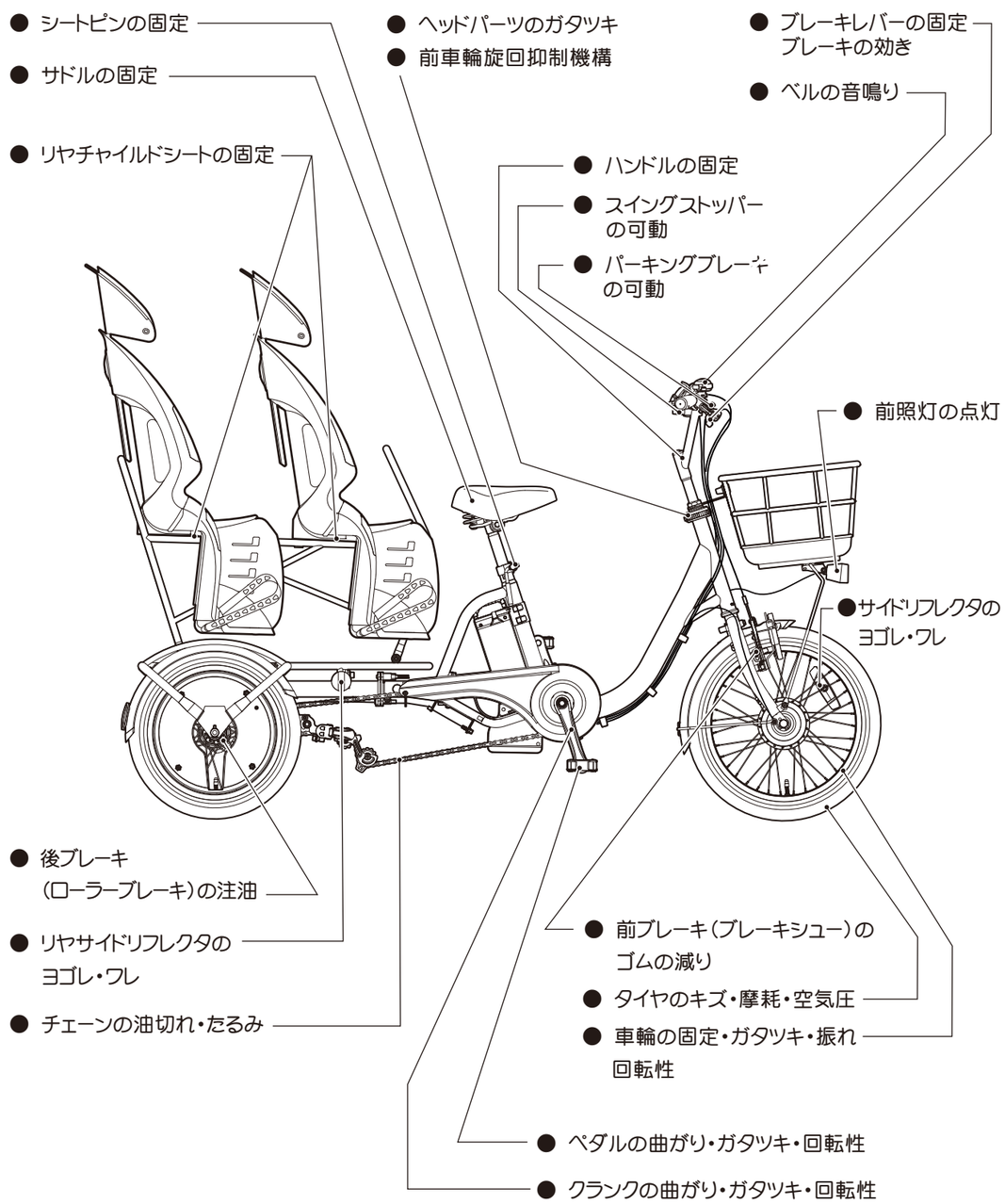
●購入後、２ヶ月以内に点検を受けてください。
初期には特にネジがゆるみやすいので、必ずお買い求めの自転車販売店で、自転車安全整備士、自転車技士（自転車組立整備士）により、点検・整備を受けてください。

【定期点検】

●必ず自転車自転車販売店で定期点検（6ヶ月ごと）を受けてください。
安全に長くお使いいただくために必ず点検を受けてください。
長い間使用せず、再び使用するときも点検を受けてください。

各部の点検

調整や修理が必要なときは自転車販売店にご依頼ください。



■日常点検の方法

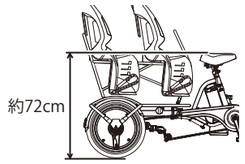
ハンドル・サドル

禁止　挿入不足で使用しない。

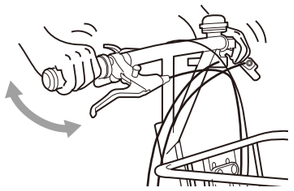
●ハンドル・サドルの組付け

※はめ合わせの限界標識がかくれるまで差し込まれていること。
※ハンドルが前車輪に直角に固定されていること。
※サドルがフレーム中心とあっていること。
※サドルにすわってブレーキやハンドルを無理なく操作できること。

●サドル上面の最低地上高（サドルを一番下げた状態）は約72cmです。

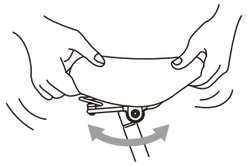


ハンドルの固定
（前車輪を足で固定してハンドルを動かしてみる。）



※力を入れてもハンドルのみが回らないこと。

サドルの固定
（サドルの前後を持って動かしてみる。）

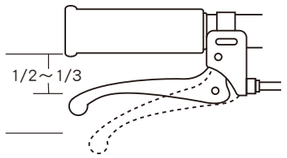


※力を入れても回らないこと。

ブレーキ

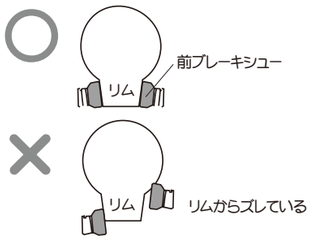
強制　ブレーキワイヤーは消耗品です。異常がなくても2年に1度は交換してください。

●ブレーキのきき具合



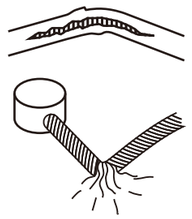
※すきまが1/2～1/3になるまでにブレーキがよくきくこと。
※レバーの作動が重くないこと。

●前ブレーキシュー（ゴム）当たり



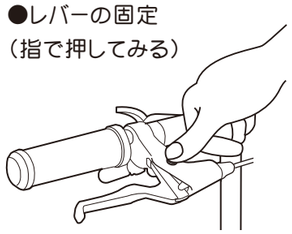
※ブレーキを掛けた時にブレーキシュー（ゴム）がキチンとリムに当たること。

●ワイヤーのサビ・切れ



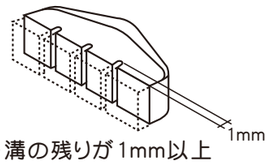
※サビ・切れ・ほつれ・折れがないこと。

●レバーの固定
（指で押してみる）



※ズレ動かないこと。

●前ブレーキシュー（ゴム）の減り



※溝の残りが1mm以上あること。

●リム表面の汚れ

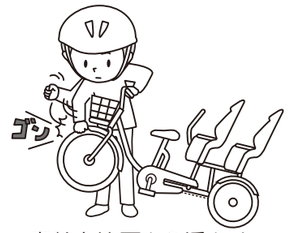
※制動面となるリム表面にヨゴレや付着物がないこと。
ブレーキの利きが悪化し、事故や破損の原因となります。
乾いた布で掃除しましょう。

車輪

注意　前車輪を交換したときは、サイドリフレクターの付け忘れがないようにしてください。

●固定
（自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいてみる。）

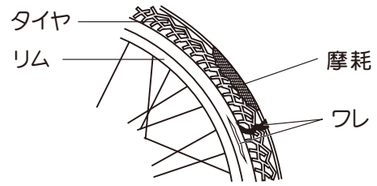
車輪をたたく



車輪を地面から浮かす

※車輪がズレたりガタついたりしないこと。

●タイヤ、リムのキズ・摩耗



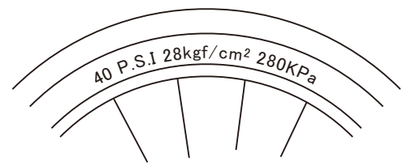
タイヤ
※コードが見える深いワレや摩耗がないこと。
※接地面の模様が充分残っていること。

リム
※制動面となるリム表面にヨゴレや付着物がないこと。
※ブレーキの利きが悪化し、事故や破損の原因となります。乾いた布で掃除しましょう。
※リムが摩耗していないこと。破損または強度の低下により転倒してケガの恐れがあります。

●振れ・ガタツキ・回転性
（自転車を持ち上げて回してみる。）

※スムーズに回転し大きな振れやガタツキがないこと。

●空気圧
（例）

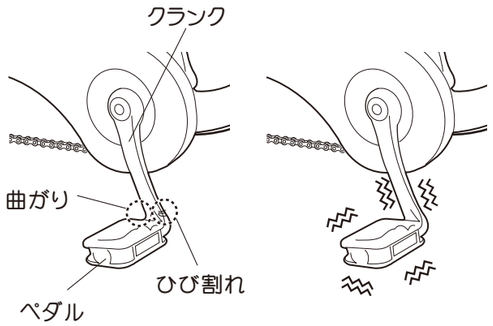


※充分空気が入っていて、タイヤに表示してある空気圧になっていること。
（図の数値は表示の例です。実際のタイヤの表示に従って空気圧を調整してください）

ギヤクランク・ペダル、チェーン

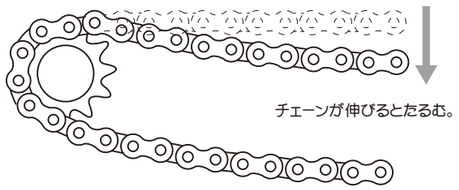
注意	チェーンがたるむと、外れやすくなり走行が出来なくなったり、思わぬ事故につながる恐れがあります。
強制	チェーンは消耗品です。チェーンの伸びが限界になりますとギヤの歯のピッチと、チェーンのコマのピッチが合わなくなってきます。ペダルを踏み込んだときに、すべるような症状が発生したり、停車時にもリヤフレームにふれていたりする症状が出た場合は、チェーンの交換が必要になることがありますので、お買い求めいただいた自転車販売店にご相談ください。

●ギヤクランク・ペダル



※クランク・ペダルにガタがなくスムーズに回転すること。
※ギヤクランクに変形やひび割れがないこと。

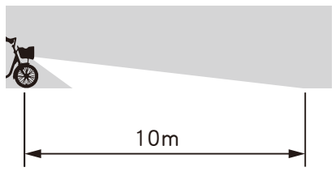
●チェーン



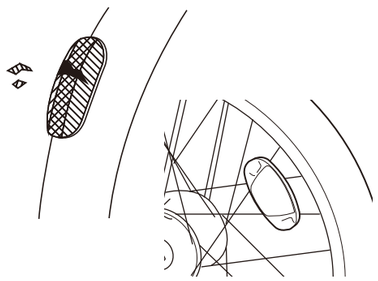
※油切れがなく、上から押してみたときにうごくこと。
※上部チェーンがリヤフレームに当たるほど大きくたるんでいないこと。

前照灯・リフレクタ・ベル

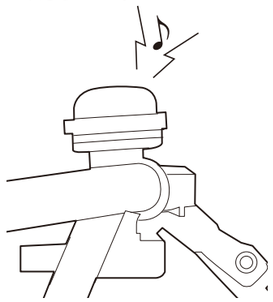
●前照灯
※明るく点灯し、10m前方の路面を照らすこと。
但し、対向者（車）に眩しくならない角度に調節してください。



●リフレクタ
※必ず装備されてあり、前後と側面からよく見えること。
※レンズの汚れやフレがないこと。



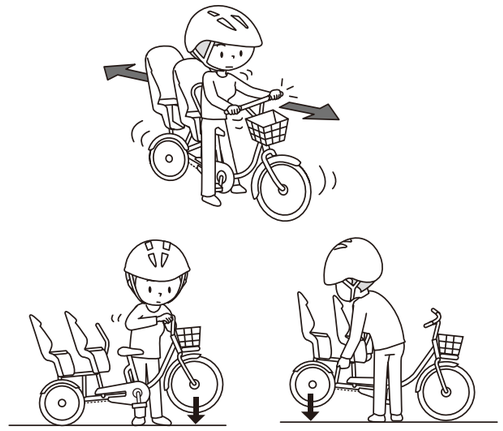
●ベル
※ベルが必ず装備されてあり、よく鳴ること。



各部のネジのゆるみ

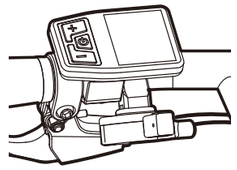
●ヘッド部のゆるみ、ガタツキ
左右のブレーキレバーを握り、自転車を前後にゆする。
※ガタツキやヘッドがゆるんでいたりすると部品がこわれてしまいます。

●各部のネジのゆるみ
（10cm～20cmほど持ち上げて軽く落とす）
※異音がしないこと。異音がしたらネジがゆるんでいる恐れがあります。



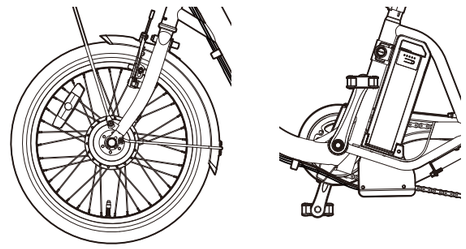
操作パネル

●ケースやスイッチ部にひび割れがないこと。
●コードに断線や損傷がないこと。
●ハンドルを回転させたときに、コードが無理に引っ張られていないこと。



駆動アシストユニット

●異音や異臭がしていないこと。
●モーターやバッテリーが高温になっていないこと。



バッテリー

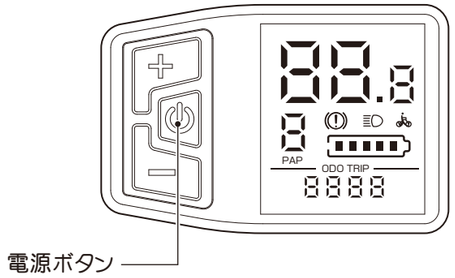
●残量
充電が充分にされていること
→ 37ページ参照

●固定
確実に自転車に装着されていること
必ず手前に引いて外れないか確認してください。

充電方法

1 操作パネルの電源ボタンを押して電源を切る

必ず電源を切ってからバッテリーを外してください。電源を切らずにバッテリーを外すと故障の原因になります。

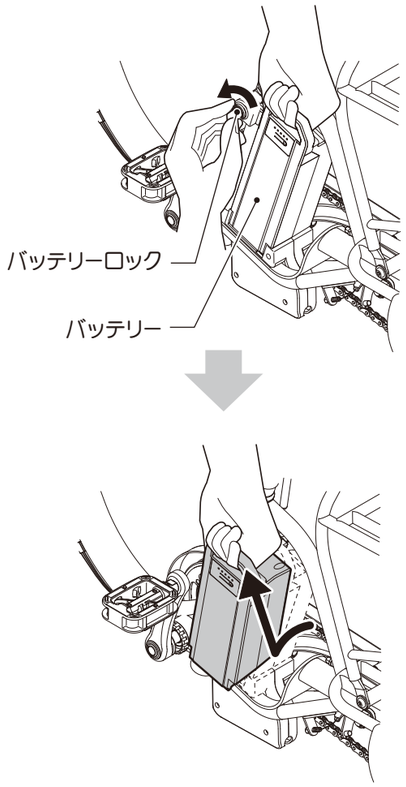


2 バッテリーロックを解除し、バッテリーを取り外す

注意	バッテリーは幼児の手の届くところには置かないでください。

強制	バッテリーを支えてキーを回してください。

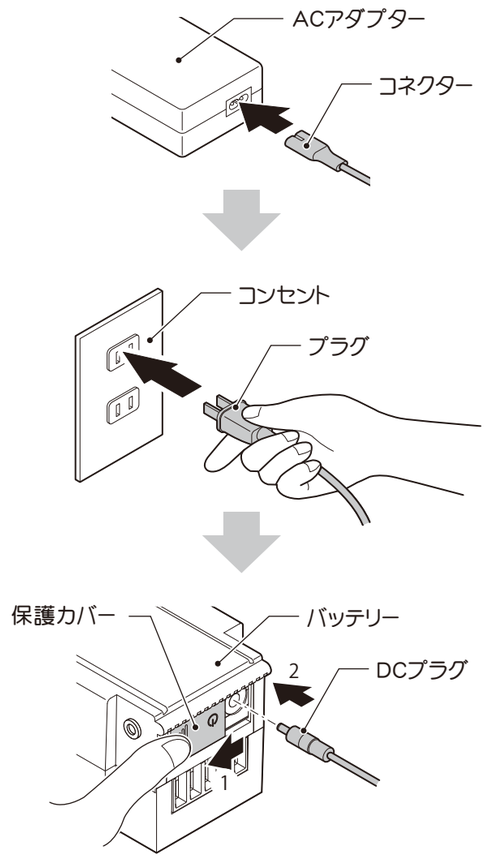
①バッテリーロックにキーを差します。
②キーを反時計回りにまわしてロックを解除します。
③バッテリーを手前に倒して引き上げます。
④キーを時計回りにまわして、引き抜きます。



3 バッテリーを充電する

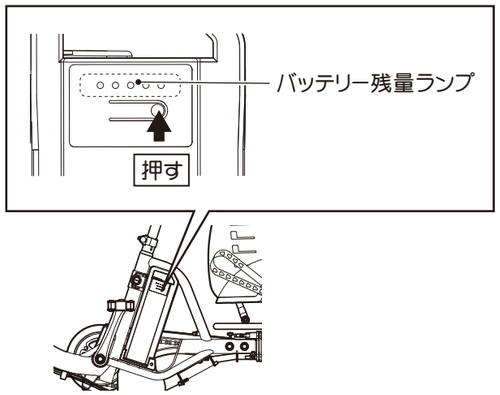
強制	バッテリーは両手で扱ってください。

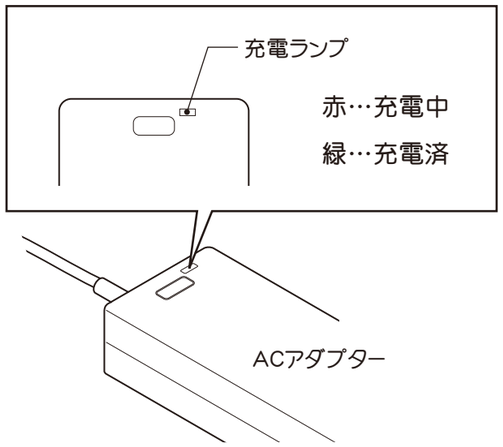
①ACアダプターに電源ケーブルのコネクターを差し込みます。
②プラグをコンセント（交流100V）に差し込みます。
③保護カバーをずらして、DCプラグをバッテリーに差し込みます。



充電の確認

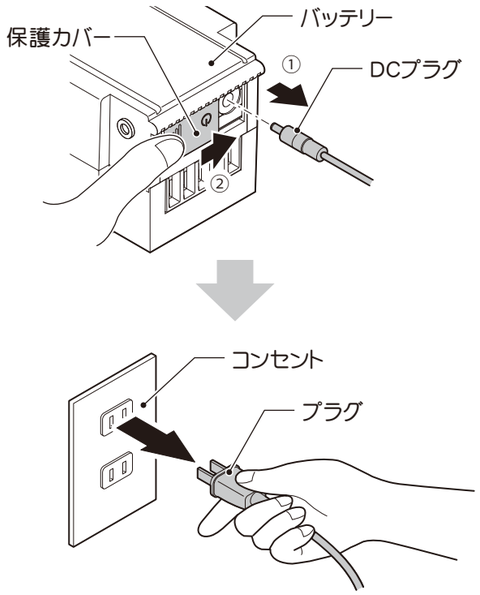
バッテリーの充電状態を確認するには充電器のACアダプターにある充電ランプか、バッテリーのバッテリー残量ランプで確認できます。





4 バッテリーを充電器から外す

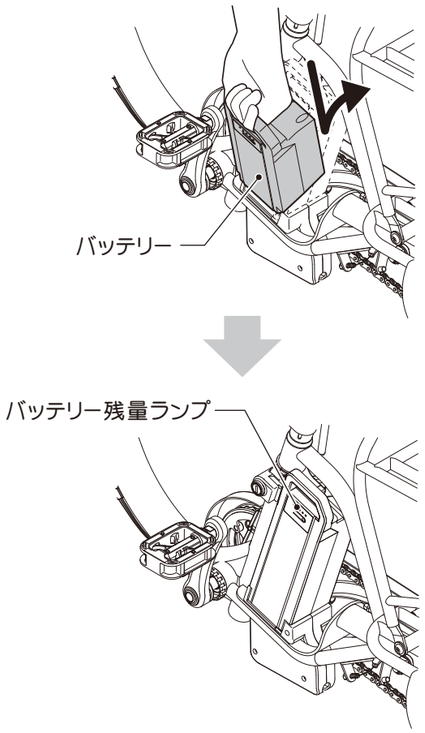
①充電器を手で押さえて、バッテリーからDCプラグを抜き、保護カバーを戻します。
②コンセントから電源プラグを抜きます。



5 バッテリーを取付ける

警告	バッテリー装着後は確実に自転車に装着されているか確認する 走行中に脱落して転倒したり、落下してケガの恐れがあります。
注意	バッテリーとフレームの間に指を入れない 指をはさみケガの恐れがあります。
強制	バッテリーは両手で扱う

①バッテリー残量ランプのある面を手前にして持ちます。
②バッテリーを手前に倒しながら、開口部の溝とバッテリーの突起部を合わせます。
③バッテリーを起こし、しっかりと押し込みます。



■充電するときのお願い

●初めて乗るときや、1ヶ月以上乗車していないときは必ず充電してから使用してください。
●充電式電池は長期間放置すると自己放電していることがありますので、ご使用になる前に電池残量を確認し残量が少ない場合は充電してからご使用ください。
●保管後6ヶ月を経過した場合、再度本体を満充電してください。本体の電池残量が少ない場合には長期間保管をしないでください。本体の電池容量が著しく少なくなることや使用できなくなることがあります。
●必要以上の連続充電をしないでください。バッテリー本体が満充電になったら、必ず電源から外してください。
●本製品の端子からコネクターを抜き差しするときには、必ずプラスチック部分を持って行い、コードを強く引っ張ったりして負担をかけないでください。またコードが傷んでいたら使用しないでください。
●幼児の手の届く場所を避けて保管してください。
●自転車やバッテリーの端子、充電コードのコネクター近辺が汚れたりほこりがついた時は速やかに乾いた布で拭きとってから使用してください。接続部分に異物が混入すると火災や感電、故障、事故、の原因となります。
●バッテリーは必ず外したした状態で、充電してください。また、バッテリーが古かったり、故障している場合は充電できません。その場合は新しいバッテリーと交換してください。
●満充電までの時間は、使用環境によって異なります。
●充電状態はバッテリー側面の残量表示でご確認ください。
●本製品の使用により肌に異常が現れた場合は、使用を中止して医師の診断を受けてください。
●本製品は日本国内でのみ使用することを前提に設計、製造されております。国外の使用トラブル等はお受け致しかねますで、あらかじめご了承ください。
●本製品の使用中に起こる機器の破損、故障、人体への影響のトラブルの責任は一切弊社では負うことが出来ません。
●充電器は5℃から35℃の場所でご使用ください。
●バッテリーの温度が0℃以下だったり、充電する場所との温度差が大きいと十分に充電できないことがあります。
●雨天走行後は、バッテリーの水分を拭き取ってから充電してください。故障の原因となります。
●テレビやラジオなどの近くで充電すると、雑音がはいったり、テレビの画面がちらつくことがあります。その場合は電化製品から離して充電してください。

■お知らせ

●バッテリーの温度が高すぎたり、低すぎても充電時間は長くなります。
●充電中は充電器が熱くなりますが、異常ではありません。

バッテリーについて

走行の前に、バッテリーの残量と目的地までの距離をよく確認してください。

バッテリー残量表示	バッテリー残量の目安	目安
■■■■■	90% ～ 100%	**アシスト走行できます**
■■■■□	75% ～ 90%	
■■■□□	50% ～ 75%	
■■□□□	20% ～ 50%	**まもなく充電が必要です** アシスト力が徐々に低下する場合があります。
■□□□□	0% ～ 20%	**充電してください** アシスト力の低下、動作不安定になることがあります。
□□□□□	0%	**充電してください** アシスト走行はできません。

●バッテリーは自己放電します。長期間使用していなくても定期的に充電してください。
（目安：20%～50%）
●バッテリー残量が0%になっても普通の自転車として走行することができます。

バッテリーの種類

●この自転車には、メモリー効果の心配が無く、軽量で安全性に優れたリチウムイオンバッテリーを搭載しています。
●バッテリーは標準品を使用してください。

バッテリーの容量表示

●バッテリー本体のPSEマーク部に表示している容量表示数値（16Ah）は電気用品安全法（PSE）においてJIS C8711で規定された試験での測定容量値を定格容量値として表示しています。
●バッテリーの PSE マーク部以外の部分、取扱説明書、カタログの容量表示数値は実走を想定した社内試験条件放電での平均値（8.5Ah）を容量値として表示しています。

バッテリーの廃棄

●お買い求めの販売店にご相談ください。
●リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。不要になったバッテリーは完全に放電（アシスト走行ができなくなるまで）させてから、リサイクル協力店にご相談ください。

バッテリーの交換時期の目安と寿命が短くなる原因

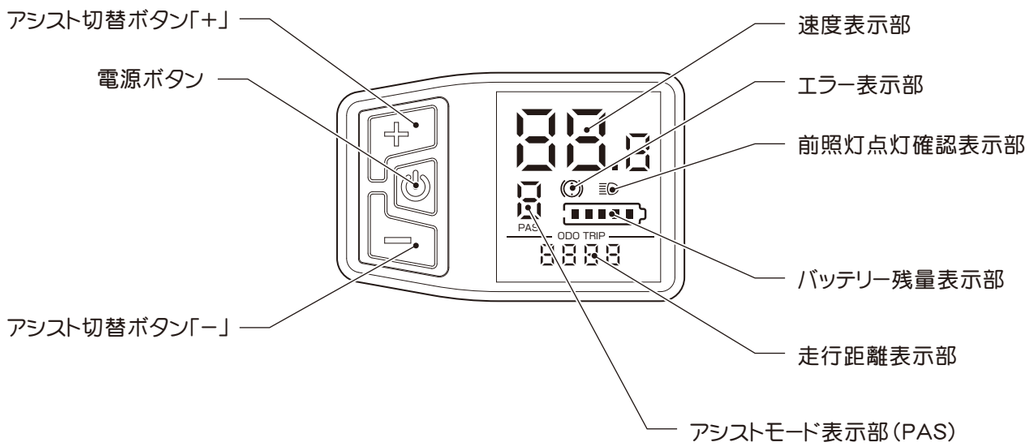
●バッテリーは消耗品です。使いかたによっては 2 ～ 3 年程度で容量が半分以下になる場合があります。1 回の満充電で走行できる距離が著しく短くなったり、走行できなくなったときはバッテリーの寿命ですので交換が必要となります。
●300～500回の充放電で走行できる距離が購入時の約半分になります。
●充電回数が300回未満の場合でもご使用や保管条件などにより、1回の充電あたりでの走行距離が著しく短くなる場合があります。
●冬期や寒い環境下では、1回の満充電あたりでの走行距離が短くなります。この現象はバッテリーの特性で、バッテリー温度を15～25℃の室内で保管してからご使用いただくと症状を軽減することができます。
●ペダルを強く踏み込む状態で走行する機会が多かったり、高温になる場所でバッテリーを保管すると通常より少ない充電回数や短い期間でバッテリーが消耗し、寿命となる場合があります。
● バッテリーが劣化する条件（以下のような条件では劣化が早まります）
・放置期間が長く、使用頻度が低いとき
・バッテリー残量が少ない状態で長期間放置したとき
・高温になる場所で充電を繰り返したり、保管したりしたとき
●バッテリー交換時期の目安と、製品の保証期間とは関係ありません。

バッテリーの長期（1ヶ月以上）保管

●電動アシスト自転車からバッテリーを取り外し、30%程度充電した状態で保管してください。
●周囲の気温が涼しい場所（15℃～25℃）で保管してください。
●バッテリーの劣化を抑えるため、半年に1回は充電し、残量が30%程度になるまで充電してください。
●バッテリーの残量表示ボタンを押して、LEDランプが点灯しないときは、バッテリーを充電器にセットし、充電後再度ご確認ください。
●長期保管後再使用する場合、あらかじめバッテリー残量を確認し、不足しているときは、必ず充電してください。

操作パネルの操作方法と表示

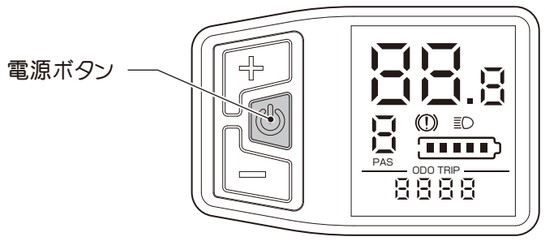
注意	電源を入れる時は、ペダルを踏み込まずに、電源ボタンを押してください。
禁止	ペダルを踏み込んだ状態で、電源を入れるなどのすべての操作をしないでください。 事故や破損の恐れがあります。



電源の「入/切」

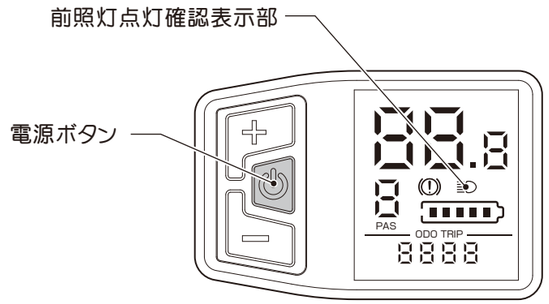
●電源ボタンの長押し（約2秒）を繰り返すごとに、電源の「入」と「切」を繰り返します。
●電源を入れたときのアシストモードは「2」になります。

※電源を入れた状態で約3分間放置をすると自動で電源が切れます。



前照灯の「入/切」

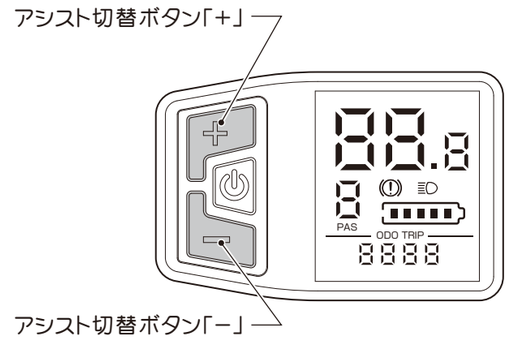
●電源ボタンを押すごとに前照灯の「点灯」と「消灯」を繰り返します。
●点灯の確認は、操作パネルの点灯確認表示部で確認してください。



アシストモードの切替え

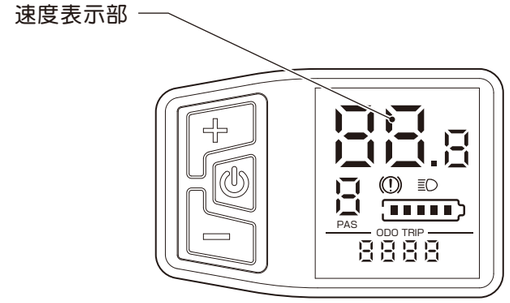
●「+」を押すと、アシストモードの数値が上がります。
●「−」を押すと、アシストモードの数値が下がります。

→ 47ページ参照



走行速度の表示

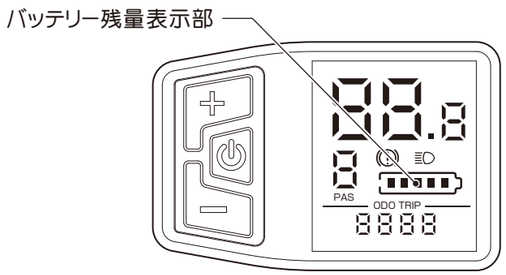
ふたごじてんしゃの標準常用速度は8～12km/hです。



バッテリー残量の表示

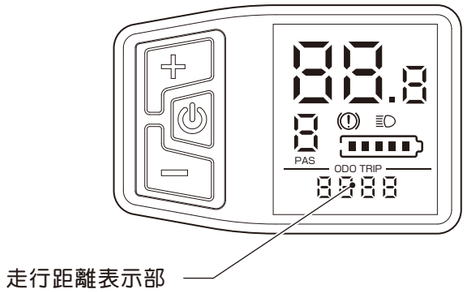
バッテリー残量の目安を表示します。

→ 37ページ参照



走行距離の表示

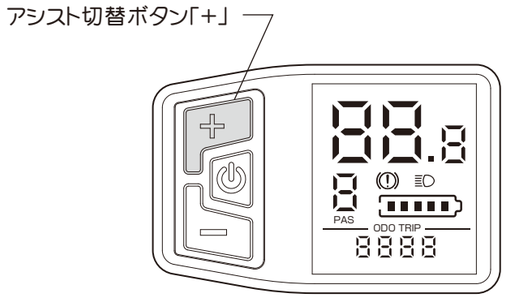
走行距離の目安を表示します。(単位:km)



「ODO」と「TRIP」表示の切替え

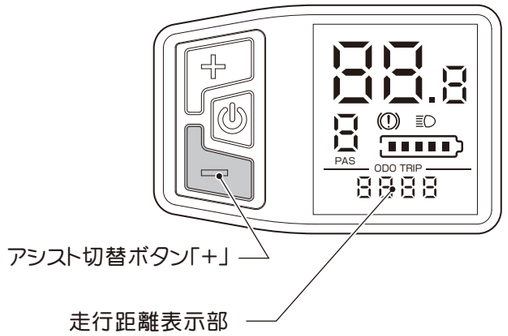
アシスト切替ボタン「+」の長押し(約2秒)で「ODO」と「TRIP」の表示を繰り返します。

「ODO」…総走行距離
「TRIP」…走行距離



「ODO」と「TRIP」表示のリセット

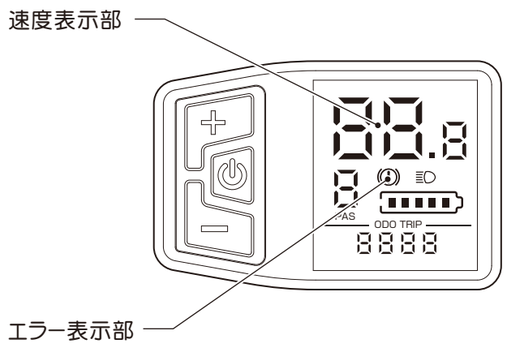
●「ODO」…「ODO」の状態でアシスト切替ボタン「−」を長押し(約2秒)するとリセットされます。
●「TRIP」…電源を切るごとにリセットされます。



エラー時の表示

●駆動システムに異常や故障が発生した際に点灯します。
●異常や故障内容は「速度表示部」に表示されます。

エラー表示コードについては、75ページに記載しています。内容を確認し、自転車販売店に修理をご依頼ください。

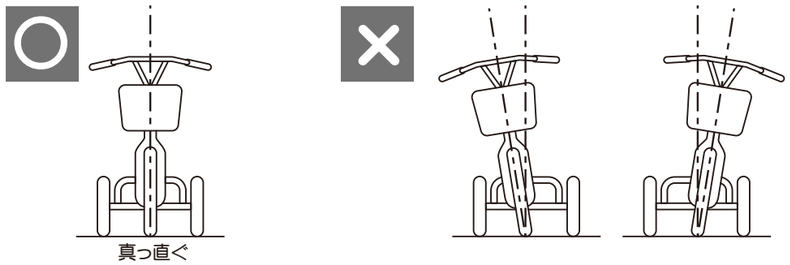


各部の取扱方法と注意事項

スイングストッパーの使い方

注意

●お子さまの乗せ降ろしを行うときは、必ずスイング機構を固定にしてください。
●前車体と後車体を真っ直ぐにしてから操作してください。
故障の原因になります。



禁止

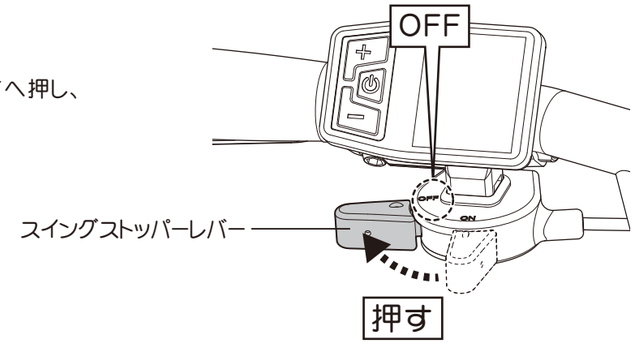
●走行中の操作、サドルに座った状態での操作はしないでください。
●スイングロック状態で走行しないでください。

強制

●ふたごじてんしゃの構造と特徴をよく理解してから使用してください。
●駐輪時も必ずスイングを固定してください。

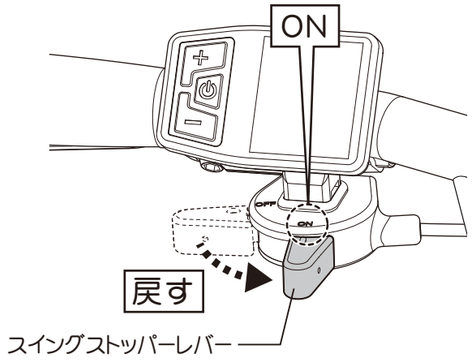
スイングさせるとき

スイングストッパーレバーを前方へ押し、
OFFの位置に合わせてください。



固定させるとき

スイングストッパーレバーを手前へ戻し、
ONの位置に合わせてください。



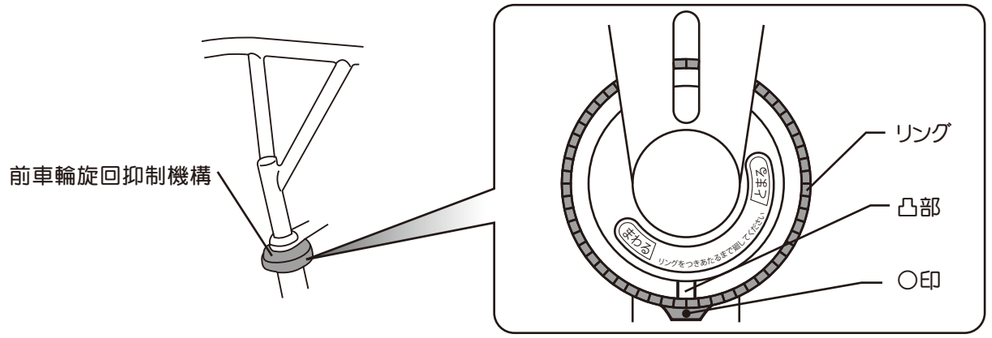
前車輪旋回抑制機構の使い方

注意

●お子さまの乗せ降ろしを行うときは、必ず赤い○印を反時計まわり（とまる側）にまわしてください。
●前車輪旋回抑制機構は駐輪時に、ハンドルのふらつきや回転を抑止します。
（ハンドルの回転を完全に固定するものではありません。）
走行前に必ずハンドルがまわる状態にしてから走行してください。
走行中や発進時には作動させないでください。

操作方法

ハンドルをまわすときはリングの赤い○印を時計まわり（まわる側）にまわし、
凸部と○印があっていることを確認してください。



パーキングブレーキの使い方（前車輪をロックする）

強制

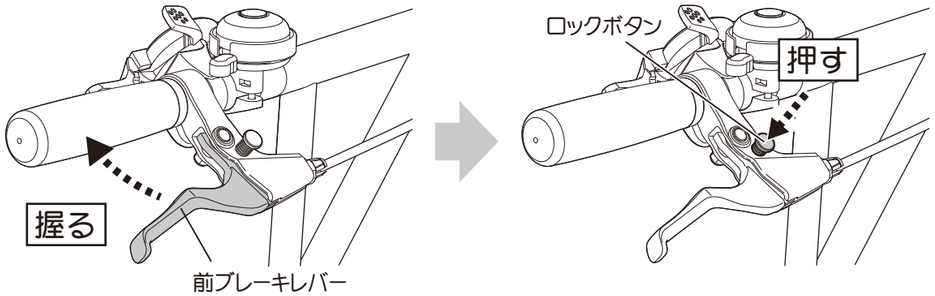
駐輪時はパーキングブレーキを必ずかける。

- ●お子さまの乗せ降ろしを行うときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。
- ●ふたごじてんしゃにはスタンドがないので、パーキングブレーキをかけないと、ひとりでに動き出して事故の恐れがあります。
- ●ふたごじてんしゃから離れるときは、パーキングブレーキが効いていることを必ず確認してください。
- ●パーキングブレーキをかけるときはカギも必ずかけるようにしてください。いたずらによるストッパー解除のときに役立ちます。

ロックするとき

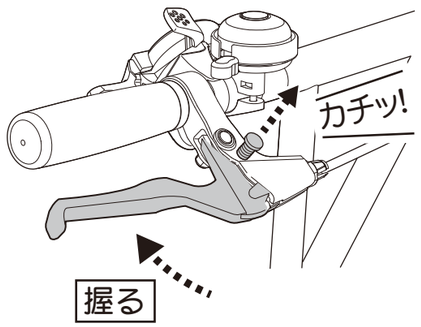
前ブレーキレバーを握り、ロックボタンを押すと前ブレーキがかかった状態になります。
（パーキングブレーキは右ブレーキレバーに付いています。）

① 前ブレーキレバーを握る。
② ロックボタンを押す。
③ 前ブレーキレバーから手を離す。
④ ロックボタンから手を離す。



ロックを外すとき

パーキングブレーキの解除は、前ブレーキレバーを握れば音がしてロックボタンは自動的に解除されます。



内装変速機の使い方

●内装変速機は「坂道」や「風向き」など走行条件の変化に応じてギヤ比を変え、ペダリングの速さと重さを一定にして、疲れを少なくすることができます。

注意

シフトチェンジは、坂道の手前で早目に操作してください。

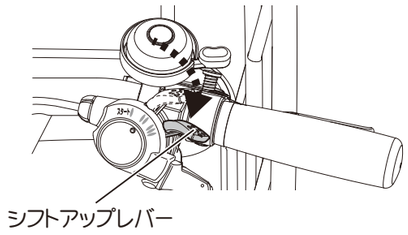
禁止

- ●ペダルの踏み込みを止めて、シフトレバーを1段ずつゆっくり操作してください。
  ペダルの踏み込みを止めずに操作すると変速機が故障してしまいます。
- ●一度に多段変速をしないでください。
  ペダルと足の回転が合わず転倒やケガの原因になります。
- ●交差点や踏切など踏み出したときはチェンジしないでください。
  チェンジミスが起き、ふらついて転倒したり、変速機が故障してしまいます。
- ●急な上り坂や下り坂では自転車から降りて押してください。
  ふらついたりスピードが出すぎて危険です。

操作方法

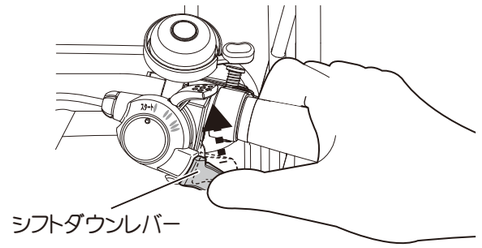
シフトアップ　シフトアップ：1→2→3　ペダルの回転が 重くなる

・位置決めの軽い手ごたえがあるまでシフトアップレバーを押してください。



シフトダウン　シフトダウン：3→2→1　ペダルの回転が 軽くなる

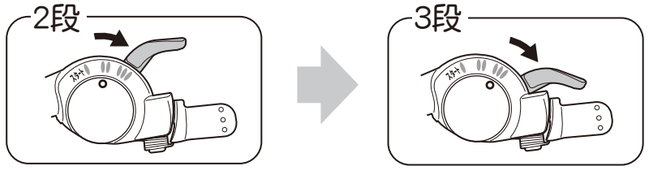
・シフトダウンレバーを押してください。



ペダルの回転が速く、軽すぎるとき

シフトアップレバーを押す

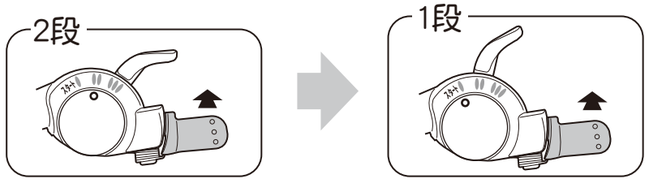
ペダルの回転が重くなります。
ちょうどいい重さのギヤを選んでください。



発進前、上り坂、向い風などペダルの回転が重いとき

シフトダウンレバーを押す

ペダルの回転が軽くなります。
ちょうどいい重さのギヤを選んでください。



アシストの強さの変え方

電源が入っていれば+−ボタンでアシストの強さを切り替えられます。

3（パワー）・・・パワフルなアシスト力で、坂道や重い荷物を積んでいるときに適しています。

2（オート）・・・標準的なアシストモードです。広範囲にお使いいただけます。

1（エコ）・・・アシスト力を抑え、長距離の走行に適しています。

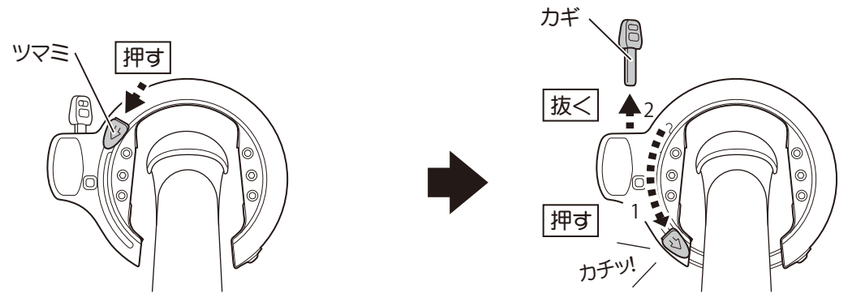
アシストモードと内装変速機の目安設定

	スタート	平地	上り坂	平地	下り坂	平地
アシストモード	2	2	3	2	1	2
内装変速機	スタート～	～	スタート	～		～

※イラストはイメージです。使用される道路環境や自転車への積載重量により走行感が異なります。

馬蹄錠の使い方

●ツマミを矢印の方向に押し続けます。カチッ!と音がしたら、カギを抜き取ります。



タイヤへの空気補充の仕方

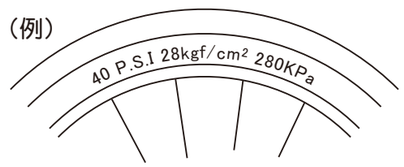
注意　空気圧が少ないと、タイヤの接地面積が広くなって走行抵抗が増し、ペダリングが重くなります。また、タイヤの摩耗やパンク、リムの変形の原因になります。必ずタイヤに表示している空気圧の範囲内で使用してください。

強制　お買い上げいただきました自転車のタイヤバルブは英式です。種類にあった口金のポンプで空気を補充してください。ポンプの口金は製造メーカーによって異なりますので一例を示します。詳しくは自転車販売店にご相談ください。

タイヤバルブの種類		ポンプ（口金）の種類	空気の入れ方
英式	キャップ バルブ本体	（例） 口金	●バルブ本体にポンプの口金を取付けて空気を入れ空気圧を確認する。

適正な空気圧

●タイヤ側面に刻印されている標準空気圧に従ってください。
→ 30ページ参照



前照灯の取扱い（調整は販売店にご依頼ください。）

この自転車の前照灯はバッテリー式前照灯です。バッテリーを取付けていないときは点灯しません。

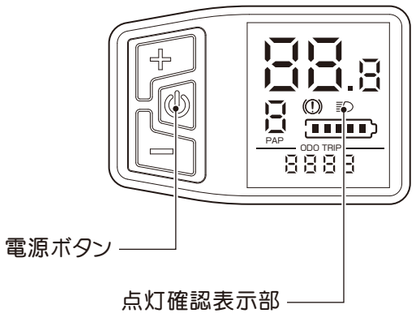
警告

下記の点は安全のためにも絶対に行わないでください。

- ●前照灯の取付けが緩んだまま走行しない
  前方を照らす角度が狂い、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。乗る前に必ず点検してください。
- ●目に光を当て続けない
  目を痛める原因になります。
- ●夜間や視界の悪いときは無点灯で乗らない
  衝突や転倒によるケガの恐れがあります。また、自動車を運転している人に自車の位置を知らせる役割もあります。前照灯がつかないときや点滅状態のときは、押して歩いてください。無点灯や点滅状態での夜間乗車は法令違反になります。
- ●走りながら、前照灯の角度調整をしない
  衝突や転倒によるケガの恐れがあります。

スイッチの操作

①操作パネルの電源ボタンを長押してメインスイッチをオンにします。
②電源ボタンを押すごとに前照灯の「点灯」と「消灯」を繰り返します。



点灯の確認方法

点灯の確認は、操作パネルの点灯確認表示部で確認してください。

※点灯しないときはスイッチに不具合があることもございますので販売店にて点検してください。

memo

使用条件

⚠ 警告	●高速での事故・転倒は大ケガの恐れがあります。スピードは常にひかえめにしてください。また、天候や使用環境によっては、スピードをひかえたり乗車をしないようにしてください。 ●荷物を積まない場合や、お子さまを同乗していない場合と比べて操舵性や制動性能が異なります。 ●走行・ご使用の際は、必ず利用者の責任で道路交通法及び各自治体の条例・公安委員会の定める規則の確認と遵守をしてください。ご不明な点があれば、最寄りの警察署及び地方公共団体にお問い合わせください。

[標準常用速度] ※この自転車を設計するうえで想定した標準的な速度です。

8～12km/h

但し、スイングストッパー使用時は5km/h（人が歩く程度の速さ）まで → 54ページ参照

⚠ 注意	スイングストッパーは練習時のみご使用ください。常時使用すると破損の恐れがあります。

[乗員体重（運転者）] 65kgまで

※ この自転車は乗員体重（運転者）を65kgまでに想定して基本設計しています。
従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、消耗度合、劣化度合が大きくなりますので、
予めご了承のうえ、ご使用ください。

[許容積載重量]

●乗員体重及び積載する荷物の重量との合計116kgまで。

⚠ 注意	お子さまを乗せている時の合計重量であり、荷物のみの積載は前後合わせて30kgを超えないようにしてください。（道路交通法で禁止）

[参考]乗員体重（運転者）：65kg+幼児（24kgx2名）：48kg+荷物：3kg
＝ 116kg

[最大総重量]

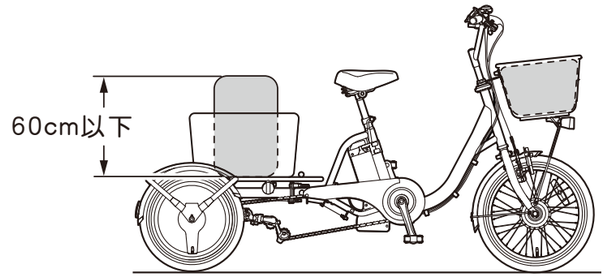
●自転車の重量、乗員体重及び積載する荷物の重量との合計163kgまで。

⚠ 注意	お子さまを乗せている時の合計重量であり、荷物のみの積載は前後合わせて30kgを超えないようにしてください。（道路交通法で禁止）

[参考]自転車の重量（幼児2人同乗仕様）：47kg+乗員体重（運転者）：65kg+幼児（24kgx2名）：48kg+荷物：3kg
＝ 163kg

荷物の積載について →52ページ参照
幼児同乗について →58ページ参照

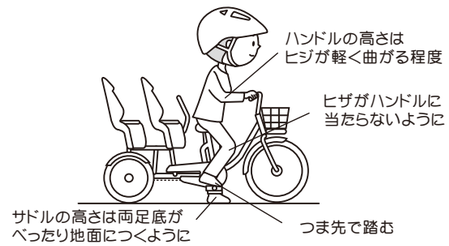
⚠ 警告	●荷物の積み過ぎは走行安定性を著しく低下させ危険です。また、はみ出した荷物は歩行者や自動車などに接触する恐れがあり危険です。最大積載量及び積載物の大きさ限度を超えないようにしてください。 ●荷物の積載量が増えると、バッテリーの電力消費が増え、アシスト走行できる距離が短くなります。 ●荷物の運搬にバスケット以外の使用はしないでください。 ●バスケットに荷物以外は載せないでください。 ●許容積載重量：乗員体重及び積載する荷物の重量との合計116kgまで。 ●最大総重量：自転車の重量、乗員体重及び積載する荷物の重量との合計163kgまで。 ●上記の許容積載重量及び最大総重量はお子さまを乗せている時の合計重量であり、荷物のみの積載は前後合わせて30kgを超えないようにしてください。（道路交通法で禁止） ●バスケット内にカバンなどを入れた場合、材質によってはカバンにバスケットの色が移ったり、ヨゴレや擦り傷が付く恐れがあります。

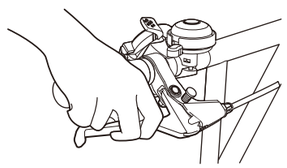


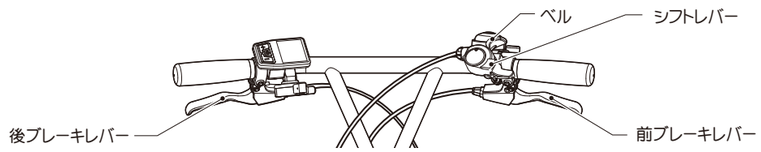
	リヤバスケット	フロントバスケット
最大積載量	取付けるバスケットの最大積載量にしたがう※1	3kg まで
積載物の大きさの限度	高さ（60cm以下）・前後・左右共バスケットからはみ出さないこと	高さ・前後・左右共、バスケットからはみ出さないこと

[正しい乗車姿勢]

サドルに腰をおろし両手をグリップにおいた状態で、
①両足底が地面にべったりつくこと。
②上半身が少し前に傾き、ヒジが軽く曲がること。
③ペダルをこいだときにヒザがハンドルに当たらず、安全にハンドルの操縦操作ができること。
④円滑にペダルをこぐことができ、ブレーキ、シフトレバー、ベルなどが安全に操作できること。







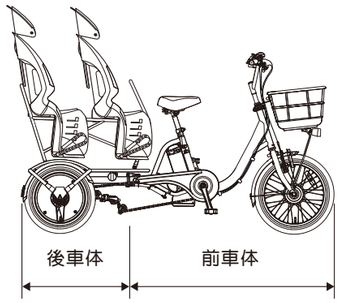
ふたごじてんしゃの構造と特徴

→ スイングストッパーの使い方は43ページ参照

ふたごじてんしゃは普通自転車や幼児用三輪車とは構造や走行性能が異なりますので、ご注意ください。

ETWB-001（後二輪式）

●このふたごじてんしゃは「後車体」と「前車体」で構成されており、スイング機構を装備しています。この機構により、前車体は後車体に対して、ある程度柔軟に左右に傾き、また傾いても元に戻ろうとする復元力が働きます。
（但し、自転車に乗れない方の一時的な練習用として、スイングストッパーを使用すると、スイング機構は働かなくなります。）



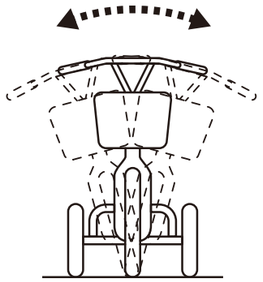
傾斜や凸凹のある路面でのふたごじてんしゃの特性

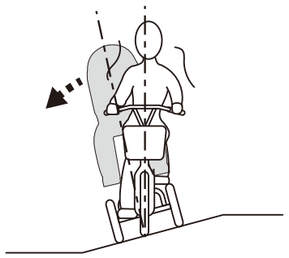
警告	●ふたごじてんしゃは路面の傾斜や凸凹の影響を受けやすく、車体が傾くとハンドルをとられやすくなり、普通自転車にくらべて運転しにくくなります。 ●路面の傾斜や凸凹が大きい場合は転倒する危険がありますので、その場合はふたごじてんしゃから降りて押して歩いてください。

A.通常使用時（スイングストッパーを使用しない時）

注意	●重力の影響により下側へ引っ張られる感じがします。 ●運転者が真っ直ぐでも後車体は傾いています。

●乗員が体を左（右）に傾けると、前車体も左（右）に傾きますが、バネの力により元に戻ろうとする復元力が働きます。
●段差に乗り上げたときや凸凹道を走行したり、カーブ走行などで前車体が傾くとチェーンがチェーンケースに触れて音がする場合もありますが異常ではありません。
●路面の傾斜により後車体が傾きます。しかし、スイング機構があるので、運転者がバランスをとることにより、ある程度、前車体を立て直しながら乗車することができます。





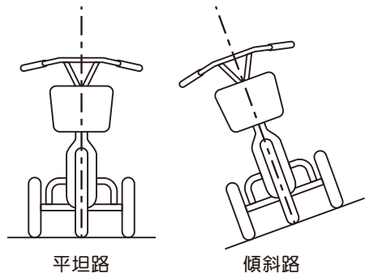
B.スイング固定時（スイングストッパー使用時）

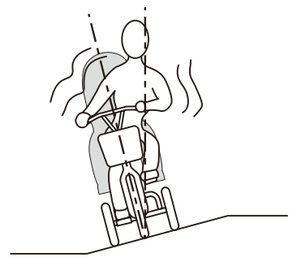
●スイングストッパーの使用について
自転車に乗れない方でも、スイングを固定の状態であれば、補助車輪付き幼児車のような感覚で乗ることができます。

注意	●スイングストッパーは練習時のみご使用ください。常時使用すると破損の恐れがあります。 ●スイングを固定した場合は、車体が左右に傾かなくなるため、操作性や安定性が悪くなりますので、カーブでは充分に減速してください。転倒する恐れがあります。 ●スピードは必ず5km/h以下（歩く程度の速さ）としてください。

禁止	**乗り方を充分習得するまでは公道では乗らない** 練習は空き地などの安全な場所で周囲の安全を確認してから行ってください。 後車輪が2輪のため、一般の自転車と車幅の間隔が異なります。ポールや狭い道では充分に注意してください。

●前車体はスイングストッパーで後車体に連結されますので、スイング機構は働きません。
●段差に乗り上げたときや凸凹道を走行するとチェーンがチェーンケースに触れて音がする場合もありますが異常ではありません。
●車体の構造上、スイング固定時にも多少傾きが生じます。前車体の傾きが完全になくなるわけではありません。
●前車体と後車体がスイングストッパーで固定されているため、スイング機構は働かず、路面傾斜とほぼ同じ角度に車体全体が傾きます。
●乗員が傾斜と逆方向に体でバランスをとる必要があります。
●路面の傾斜の方向にハンドルをとられる傾向があります。





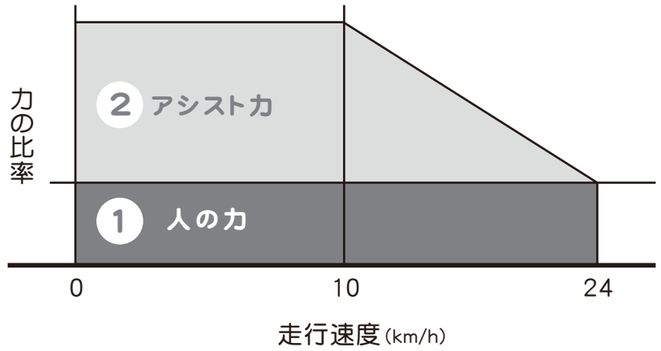
電動アシスト自転車の特徴

ここでは、アシスト力の法令基準について説明しています。電動アシスト自転車はこの基準の範囲内で、ペダルを踏む力や走行速度、変速位置などに応じて、基準の範囲内でアシストをします。

法令基準

- 10km/hまでは、こぐ力とアシスト力の比率が「最大1：2(※1)」となります。
- 10km/hを超えると、しだいにアシスト力を弱めていきます。
- 24km/hでアシスト力はゼロになります。

※1 法令基準はあくまで最大値を示すものです。ふたご電動アシストじてんしゃのアシスト比を表しているものではありません。



■こんなときにふたごじてんしゃはアシストシステムが作動しません。

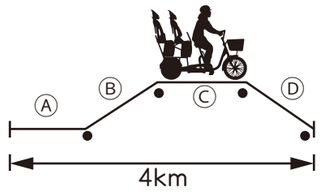
- メインスイッチの電源が切れているとき
- 14km/h以上のスピードで走っているとき
- ペダルをこがないとき
- バッテリー残量が無くなったとき
- 走行することができなくなる故障や異常が発生したとき

※14km/hを超えるとアシストしなくなります。

※走行中は駆動アシストの音がしますが、異常ではありません。

■走行できる距離の目安 (乗員1名の場合)

●1回の充電で走行できる距離の目安は下表のとおりです。

走行パターン	走行条件		走行距離(km) 10 20 30 40
低速パターン (業界統一テスト条件)※  	低速パターン(4km) Ⓐは、平坦路1kmを変速3で8km/h Ⓑは、4度坂1kmを変速2で5km/h Ⓒは、平坦路1kmを変速3で8km/h Ⓓは、4度坂1kmを変速3で11km/h ●印は10秒間の停止を表す	パワー	28km
		オート	35km
		エコ	45km
4度登坂連続パターン 	4度の坂を変速2で10km/h	パワー	8.8km
		オート	10km
		エコ	15km

※一般社団法人自転車協会が定める、『電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準(JIS D9115：2018)』に基づき測定

※測定条件

1)環境温度は 20 ± 5 ℃、無風の状態
2)バッテリーは新品を用い、バッテリーライトは消灯状態
3)車載重量(乗員と荷物の合計)は 65kg
4)路面は乾燥した平滑な路面
5)タイヤ空気圧はタイヤ側面に刻印されている標準空気圧
6)シャーシダイナモ(室内計測機)による計測

■走行距離が短くなる環境や使いかた

冬期、寒いとき	坂道が多いとき	向かい風が強いときや走行速度が速いとき	ペダルが重たくなる走り方（例：重い変速位置での走行、急加速をしたとき）	乗員体重、積載質量（荷物）が重いとき
発進、停止、加減速の回数が多いとき	路面の状態が悪い（凹凸道）とき	タイヤの空気圧が低下しているとき）	バッテリーが劣化しているとき	

※冬季（寒い環境　約5℃以下）ではバッテリーの性能が低下し、走行距離が大幅に短くなることがあります。バッテリーを暖かい室内で保管し、使用するときだけ自転車に装着することで、性能低下を軽減することができます。
※向かい風の中を走行した場合、走行距離が短くなります。
※積載質量（乗員体重）が増えた場合、走行距離が短くなります。

●バッテリーは消耗品です。使いかたによっては3年程度で容量が半分以下になる場合があります。1回の満充電で走行できる距離が著しく短くなったり、走行できなくなったときはバッテリーの寿命です。
●バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電します。目安の走行距離まで走れないことがあります。乗車のまえにバッテリーの残量の確認を心がけてください。
●そのほかにも走行距離は気象条件、路面の状況、自転車の整備の具合、乗り方などにより、大幅に短くなることがあります。
●次のようなときはアシストカは働きません。
・速度が14km/h以上のとき。
・ペダルを踏む力が弱いときやペダルの回転を止めているとき。

お子さまと乗るには

自転車用リヤチャイルドシートを取付けることで、お子さまと同乗できます。

■幼児2人同乗が可能です

※リヤチャイルドシートについて→80ページ参照

指定のリヤチャイルドシート（RBC-011DX-TW2）を2台取付けることで、一度に2人まで幼児を乗せることができます。ご使用になられるお子さまの年齢及び体格を確認し、指定範囲以外のご使用はしないでください。
●この自転車は幼児2人同乗用自転車安全基準（BAA）の適合車です。
●適用体重(お子さま1人あたり)：体重24kg以下（専用リヤキャリヤ使用時　※最大荷重48kg）
●適用年齢と身長：年齢1歳（12 か月）以上小学校就学の始期に達するまでのお子さまで身長120cm以下。
（※乗車は2歳以上を推奨とします。）

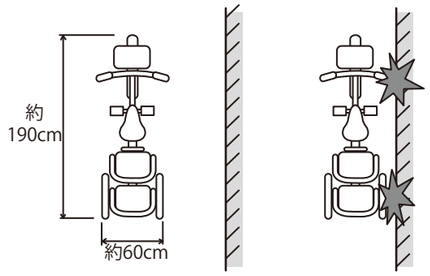
■幼児2人を同乗させる場合（リヤチャイルドシートのご使用について）

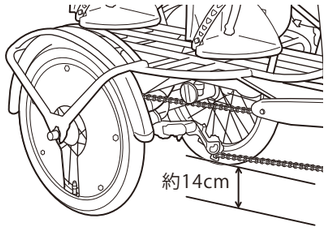
警告

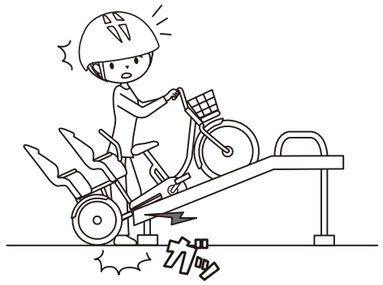
●幼児を乗せる場合は、当社指定のリヤチャイルドシートと専用リヤキャリヤを装着してください。
●当社指定以外のリヤチャイルドシートを装着すると、幼児2人同乗基準に適合しなくなります。取扱いについてはリヤチャイルドシートの取扱説明書の指示に従ってください。
●リヤチャイルドシートの組み付けは自転車販売店にご相談ください。
●幼児を乗せたまま、駐輪したり自転車から離れないでください。
●フロントチャイルドシートの使用はできません。
●1台のリヤチャイルドシートに乗せられるお子さまは1人だけです。2人以上乗せないでください。
●幼児を同乗させることで、乗員1人だけの乗車に比べてバランスがとりにくくなり、転倒の可能性が増す、衝突などの際に衝撃が大きくなる等一層の注意が必要になります。ご使用の前に慣れるまで充分に練習してからお乗りください。
●16歳未満の方は、幼児を乗せて使用することは禁止されています。
●お子さまを事故から守るためにヘルメットを必ず着用させてください。ヘルメットを着用させない場合の事故は重傷になりますが、着用させた場合は軽傷で済む事が報告されています。同乗させる幼児に、幼児用ヘルメットJIS T8134自転車ヘルメットと同等以上の性能をもつヘルメットを必ず着用させてください。又、運転なさる方もヘルメットを着用してください。（※令和5年4月1日から道路交通法にて、全ての自転車利用者について乗車用ヘルメットの着用が努力義務となりました。）

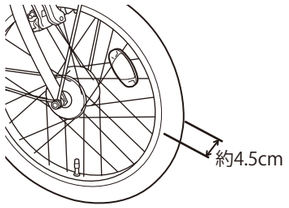
駐輪場について

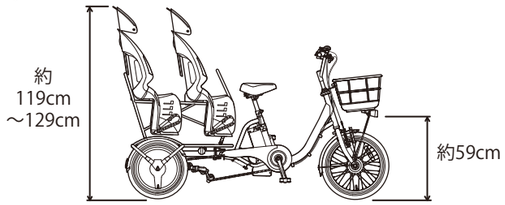
●車体が入るスペースが必要です。
●2段式の駐輪レールには、上下とも駐輪できません。
●最低地上高は約14cmです。使用できない駐輪レールもあります。
●タイヤ幅は約4.5cmです。駐輪レールの溝幅はそれ以上が必要です。











重量:約47kg
※リヤチャイルドシート2台取付時

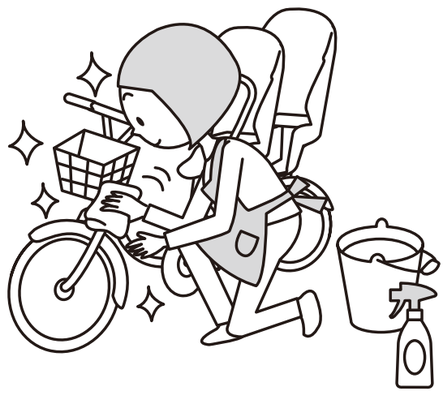
手入れについて

■日常のお手入れ

注意

●本自転車は生活防水性能を備えていますが、駆動ユニットやバッテリー、手元スイッチ、バッテリーライトなどの電装部品や回転部（前後ハブ、ヘッド部など）にはホース先端をすぼめて圧力のある水を直接かけての洗車や、高圧洗浄機やスチーム洗車機を使った洗車はしないでください。水が入った場合、故障の原因となるおそれがあります。万一、駆動ユニット、バッテリーなどが水につかった場合は、直ちに使用を中止して自転車販売店にご相談ください。
●長期間ご使用になった場合、車体側接続端子の表面に汚れや酸化物が付着し、バッテリー端子との滑りが悪くなり、バッテリーの取り外しが固くなるときがあります。バッテリーの取り外しが固くなったときは、乾いた布で車体側接続端子の汚れや酸化物をふき取ってください。このとき、金属製のものは使用しないでください。ショートして感電・火災のおそれがあります。ふき取っても汚れが取れないときは、自転車販売店にご相談ください。
●シンナー・ベンジンなどの有機溶剤、ガソリンなどの石油類薬品、酸性・アルカリ性の洗剤などは使用しないでください（塗装がはげたり、樹脂製部品が浸食されたりします）。
●サドルには、ワックスをかけないでください（座ったとき衣服が汚れたり、滑ったりします）。
●タイヤにワックスをつけないでください。タイヤが滑ったり、ひび割れが生じます。
●雨天走行後は、黒く変色するのを防ぐため、リム側面のブレーキブロック接触面の砂や泥をふき取ってください。
●プラスチック部分には油分をつけないでください。ヨゴレがついた時は水を含ませた雑巾等で拭取ってください。シンナー・ベンジン等は付着させないでください。
●次のような場所ではさびやすいので、お手入れの回数を多くしてください。
（湿気の多い場所・海岸沿い・工場地域・エアコンの室外機のそば・自動車の排気ガスのかかる所・鉄道の線路際など）

●乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
●ガンコな汚れには、台所用洗剤（中性）を薄めてご使用ください。
●雨天走行で濡れた場合は、乾いた布でふき取ってください。
●つや消し塗装部には、ワックスを使用しないでください。また、塗装部は、「自動車用ワックス（メタリック用）」をご使用ください。
●バッテリーケースの汚れは、水を含んだ布などでふき取ってください。
●プラスチック部分には油分をつけないでください。ヨゴレがついた時は水を含ませた雑巾等で拭取ってください。



乗る前に覚えよう!「ス・前・パ」

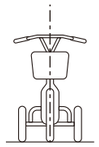
■走る前に　ス→前→パ

スイングストッパーをOFFにする

→詳細は43ページ参照

注意

- ●お子さまの乗せ降ろしを行うときは、必ずスイング機構を固定にしてください。
- ●走行中の操作やサドルに座った状態での操作は禁止です。
- ●前車体と後車体を真っ直ぐにしてから操作してください。
  故障の原因になります。



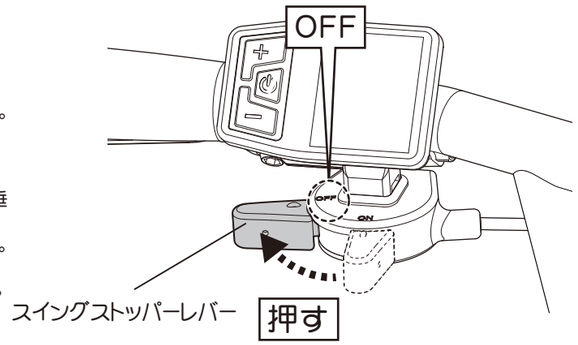
強制

ふたごじてんしゃの構造と特徴をよく理解してから使用してください。

スイングストッパーレバーを前方へ押し、
OFFの位置に合わせてください。

フロントフレームを左右にスイングさせる(傾ける)為のレバー。
ロック状態(「ON」)での走行は、練習時のみご使用ください。
常時使用すると自転車の破損の恐れがあります。

■操作のコツ
自転車から降りた状態でフロントフレームを地面に対して垂直に立てること。
※垂直にせず操作をすることで、自転車の故障につながります。
■なぜロックをかけるの?
自転車が安定した状態でお子さまの乗せ降ろしができるから。

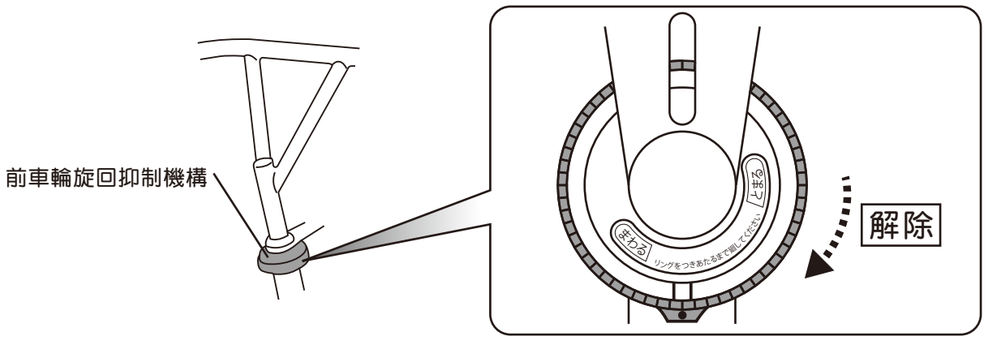


前車輪旋回抑制機構を解除する

→詳細は44ページ参照

注意

- ●走行中や発進時には作動させないでください。
- ●解除後は、ハンドルがスムーズに動作するか必ず確認してください。
- ●動作に引っ掛かりが確認される場合は解除操作をもう一度やり直してください。



赤い●を「まわる」の方向へ
ハンドルの回転を抑制するための機構。

■操作のコツ　ハンドルを少し左右に動かしながら止まるポイントを見つけること。
■なぜロックをかけるの?　フロントバスケットに入れた荷物の重さで、ハンドルが勢いよく回転し、転倒するリスクを軽減できるから。

パーキングブレーキを解除する

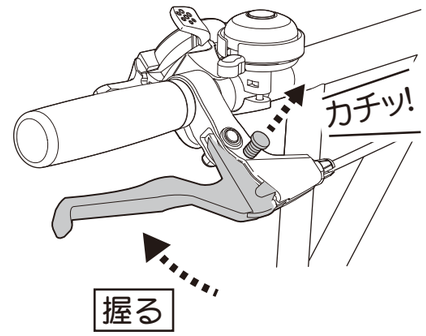
→詳細は45ページ参照

走り出す前の最後に操作する

パーキングブレーキは、前ブレーキレバー(右)を握ると音がしてロックボタンが自動的に解除されます。

ロックボタンを解除
前車輪にブレーキをかけている状態を保つためのロックボタン。

■操作のコツ
レバーを握りロックボタンが確りと飛び出るのを確認すること。
■なぜロックをかけるの?
ふたごじてんしゃにはスタンドがないので、パーキングブレーキをかけないとひとりでに自転車が動いてしまい事故やケガに繋がるから。



■離れる前に パ→前→ス

パーキングブレーキをかける

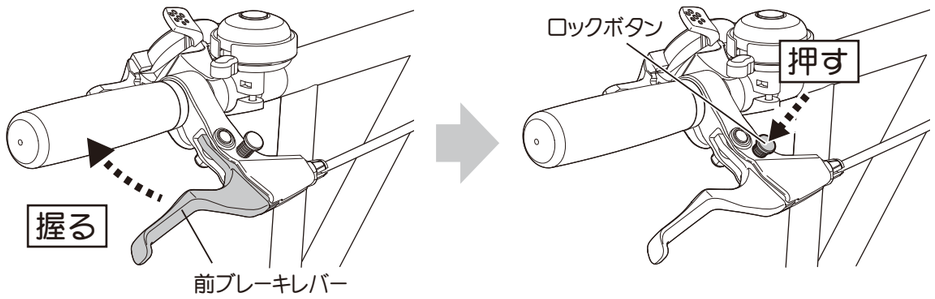
→詳細は45ページ参照

停まったら最初に操作する

前ブレーキレバーを握り、ロックボタンを押すと前ブレーキがかかった状態になります。(パーキングブレーキは右ブレーキレバーに付いています。)

強制	自転車から離れるときは必ずパーキングブレーキをかける

① 前ブレーキレバーを握る。② ロックボタンを押す。③ 前ブレーキレバーから手を離す。④ ロックボタンから手を離す。



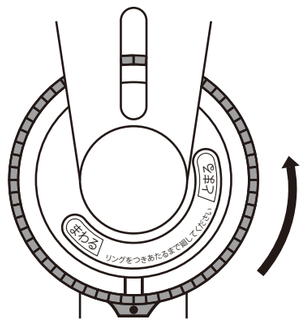
前車輪にブレーキをかけている状態を保つためのロックボタン。

■操作のコツ
レバーを握りながらロックボタンを押し、レバーから手を離し、ロックボタンから手を離す。
■なぜロックをかけるの?
ふたごじてんしゃにはスタンドがないので、パーキングブレーキをかけないとひとりでに自転車が動いてしまい事故やケガに繋がるから。

前車輪旋回抑制機構をロックする

→詳細は44ページ参照

前車輪旋回抑制機構は駐輪時に、ハンドルのふらつきや回転を抑止します。
(ハンドルの回転を完全に固定するものではありません。)



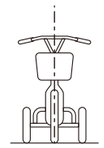
赤い●を「まわる」の方向へ
ハンドルの回転を抑制するための機構。

■操作のコツ
ハンドルを少し左右に動かしながら止まるポイントを見つけること。
■なぜロックをかけるの?
フロントバスケットに入れた荷物の重さで、ハンドルが勢いよく回転し、転倒するリスクを軽減できるため。

スイングストッパーをONにする

→詳細は43ページ参照

注意	●お子さまの乗せ降ろしを行うときは、必ずスイング機構を固定にしてください。 ●走行中の操作やサドルに座った状態での操作は禁止です。 ●自転車から降りた状態で、前車体と後車体を真っ直ぐにしてから操作してください。故障の原因になります。



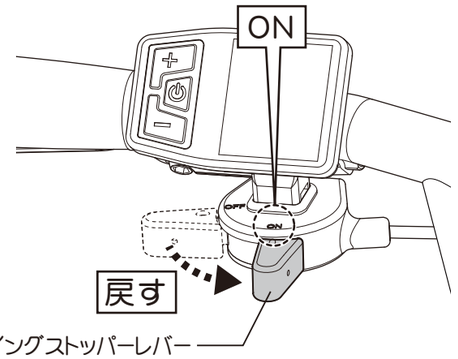
禁止	●走行中の操作、サドルに座った状態での操作はしないでください。 ●スイングロック状態で走行しないないでください。

強制	●ふたごじてんしゃの構造と特徴をよく理解してから使用してください。 ●駐輪時も必ずスイングを固定してください

スイングストッパーレバーを手前へ戻し、ONの位置に合わせてください。

フロントフレームを左右にスイングさせる(傾ける)為のレバー。
ロック状態(「ON」)での走行は、練習時のみご使用ください。
常時使用すると自転車の破損の恐れがあります。

■操作のコツ
自転車から降りた状態でフロントフレームを地面に対して垂直に立てること。
※垂直にせず操作をすると、自転車の故障につながります。
■なぜロックをかけるの?
自転車が安定した状態でお子さまの乗せ降ろしができるから。



各部の調整方法（調整は販売店にご依頼ください。）

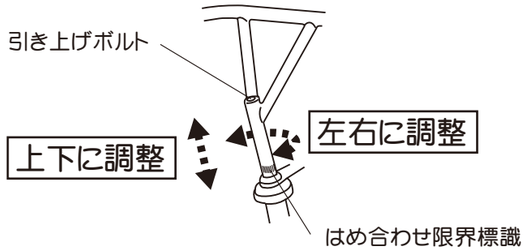
安全を確保するために、各部の調整は注意点を守って確実に行ってください。怠りますと思わぬ事故につながります。
また、調整はお子さまにはさせないようにしてください。

ハンドル調整のしかた

警告	最も高くした場合でも、ハンドルポストのはめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入してください。はめ合せ限界標識が見えていると、ハンドルポストの折れや抜けにより事故・ケガの恐れがあり危険です。

調整方法

①引き上げボルトをゆるめるとハンドルを上下に調整できます。
②固定するときは、ゆるめた引き上げボルトを六角棒レンチで締め付けて固定してください。
締付け推奨トルク：18N•m
●引き上げボルトをゆるめてもハンドルポストが動かないときは、引き上げボルトの頭を木片やゴムハンマーなどで軽くたたいてください。



サドル調整のしかた

ヤグラの向き

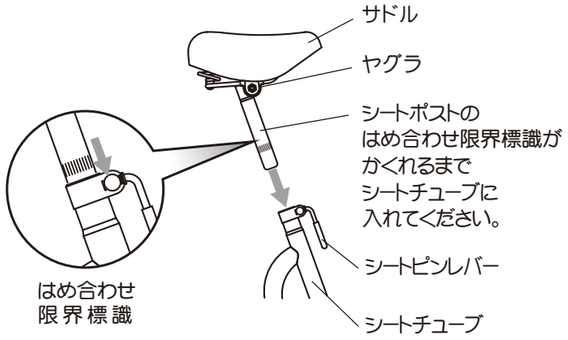
注意	この自転車のサドルのヤグラは、専用リヤキャリヤとサドルとの間隔を取るために、一般の自転車と逆向きについています。

サドルの高さ

警告	最も高くした場合でも、シートポストのはめ合わせ限界標識がかくれるまでシートチューブに挿入してください。限界標識が見えていると、サドル（シートポスト）の折れや抜けにより事故・ケガの恐れがあり危険です。

調整方法

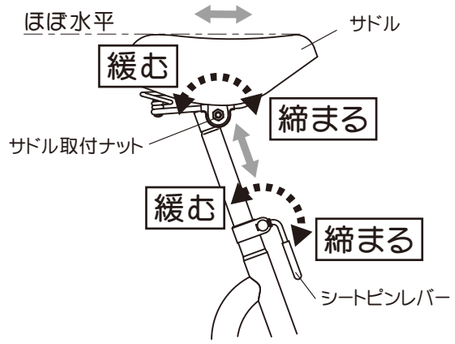
①シートピンレバーをゆるめるとサドルを上下に調整できます。
②固定するときは、シートピンレバーを締め付けて固定してください。



サドルの前後調整と取付角度

注意	サドルを後ろにし過ぎると、運転者と専用リヤキャリヤが接触することがあります。

●ペダルをななめ上のいちばん力を入れやすい位置にして足をのせたとき、ひざの中心の真下にペダルの中心があるのが最適です。サドルの取付角度は、サドル上面がほぼ水平になるようにしてください。



調整方法

①サドル取付ナットをレンチ等でゆるめて前後位置と取付角度を調整してください。
②固定するときはレンチ等でサドル取付ナットを締め付けて固定します。
締付け推奨トルク：16～20N•m

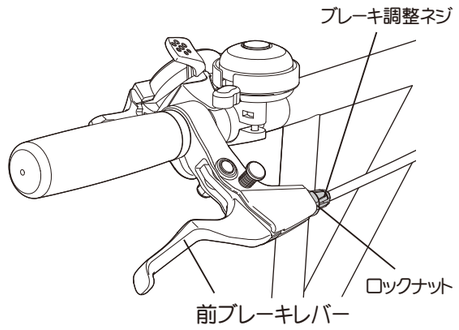
ブレーキ調整のしかた

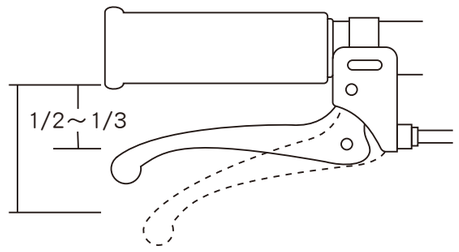
警告	長い間使っているとブレーキレバーのあそびが大きくなり、効きが悪くなってきます。また、使用によるなじみや摩耗でブレーキの効き具合は変わります。ブレーキが効き過ぎたり、効かなかったりする場合は販売店で点検してください。

前後ブレーキレバー

調整方法

前ブレーキ・後ブレーキ共にブレーキ調整ネジをゆるめるとブレーキレバーのあそびが少なくなります。ブレーキレバーを引いて、すきまが1/2～1/3になるまでにブレーキがきくように調整してください。ブレーキ調整ネジにロックナットが装着されていますので、一度ロックナットをゆるめてからブレーキ調整ネジを調整してください。調整後はロックナットを締め付けてください。

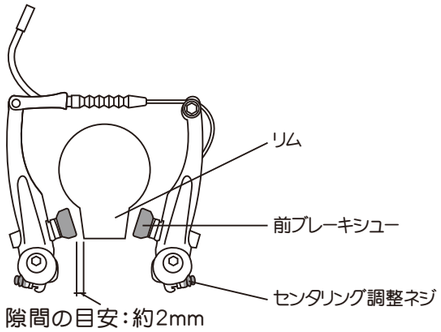




前ブレーキ

調整方法

センタリング調整ネジで、リムと前ブレーキシューの隙間が左右均等になるように調整してください。



後ろブレーキ（ローラーブレーキ）

注意

ローラーブレーキは、1年毎に専用グリスの充填が必要です。専用グリスの充填については自転車販売店にご相談ください。
使用中に次のことが発生した場合には、すぐに使用を中止し自転車販売店で点検・修理をしてください。

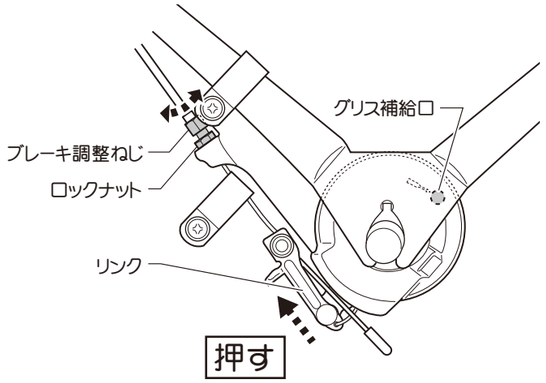
- ●ブレーキをかけたときに音鳴りがする場合
- ●ブレーキの効きが、異常に強く感じた場合
- ●ブレーキの効きが、異常に弱く感じた場合

調整方法

ブレーキ調整ネジを反時計回りに回転させるとあそびが少なくなります。

①ブレーキ調整ねじのロックナットをゆるめる
②リンクを押しながらブレーキ調整ねじをまわす
③ブレーキ調整ねじがゆるまらないよう、ロックナットを締付ける

締付け推奨トルク：1～2N•m



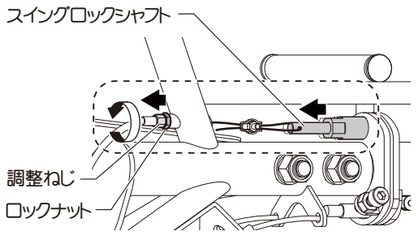
スイングワイヤの調整のしかた

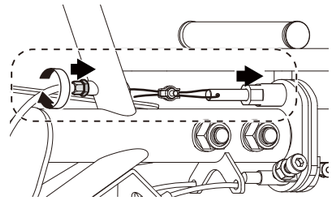
調整方法

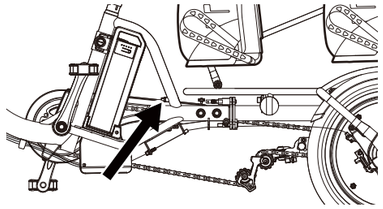
スイングロックシャフトの引きが弱く、ロックが解除できなくなった場合に実施してください。

①調整ねじのロックナットをゆるめる
②調整ねじを回す
③調整ねじはがゆるまらないよう、ロックナットを締付ける

締付け推奨トルク：1～2N•m







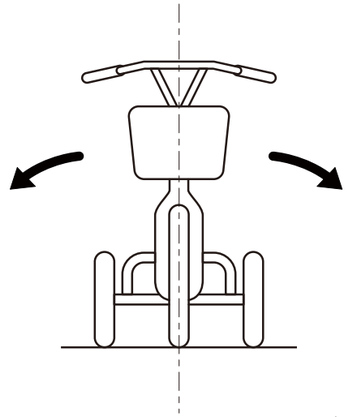
フロントフレームのセンタリング

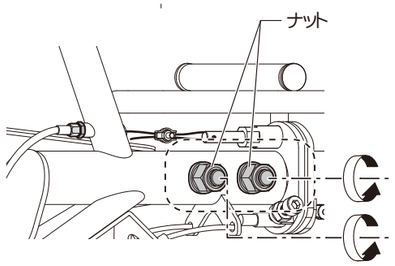
調整方法

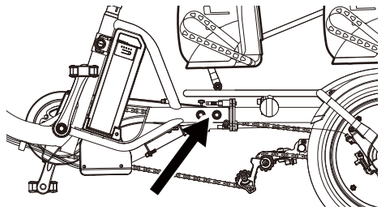
車両を停車した状態でリヤフレームを正とした場合に、フロントフレームが左右どちらかに大きく傾いている場合に実施してください。

①ナットを緩める
②フロントフレームを正常位置に戻す
③ナットを締付ける

締付け推奨トルク：50～55N•m







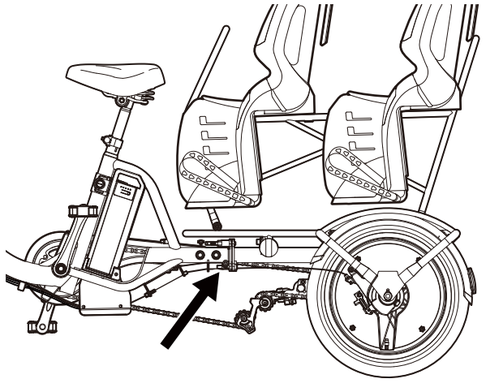
バンク角の調整のしかた

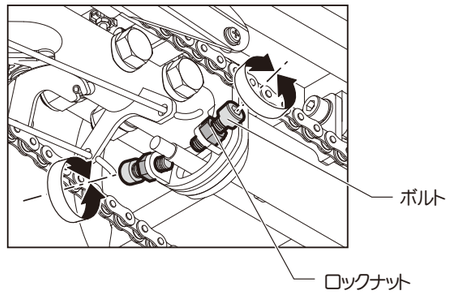
調整方法

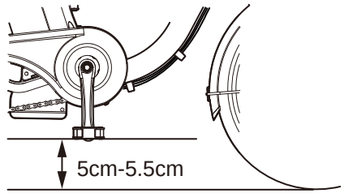
フロントフレームの左右倒れ角（バンク角）が大きく異なる状態であった場合に実施してください。
安全走行の為の角度は、約12度±1度です。フロントフレームを倒し下方にしたペダルが地面から約5cmの位置になるようにしてください。

①左右のロックナットを緩める
②ボルトで調整
　●ボルトを締めるとバンク角が浅くなります。
　（倒れる角度が少ない）
　●ボルトをゆるめるとバンク角が深くなります。
　（倒れる角度が大きい）
③ロックナットを締付ける

締付け推奨トルク：12～17N•m





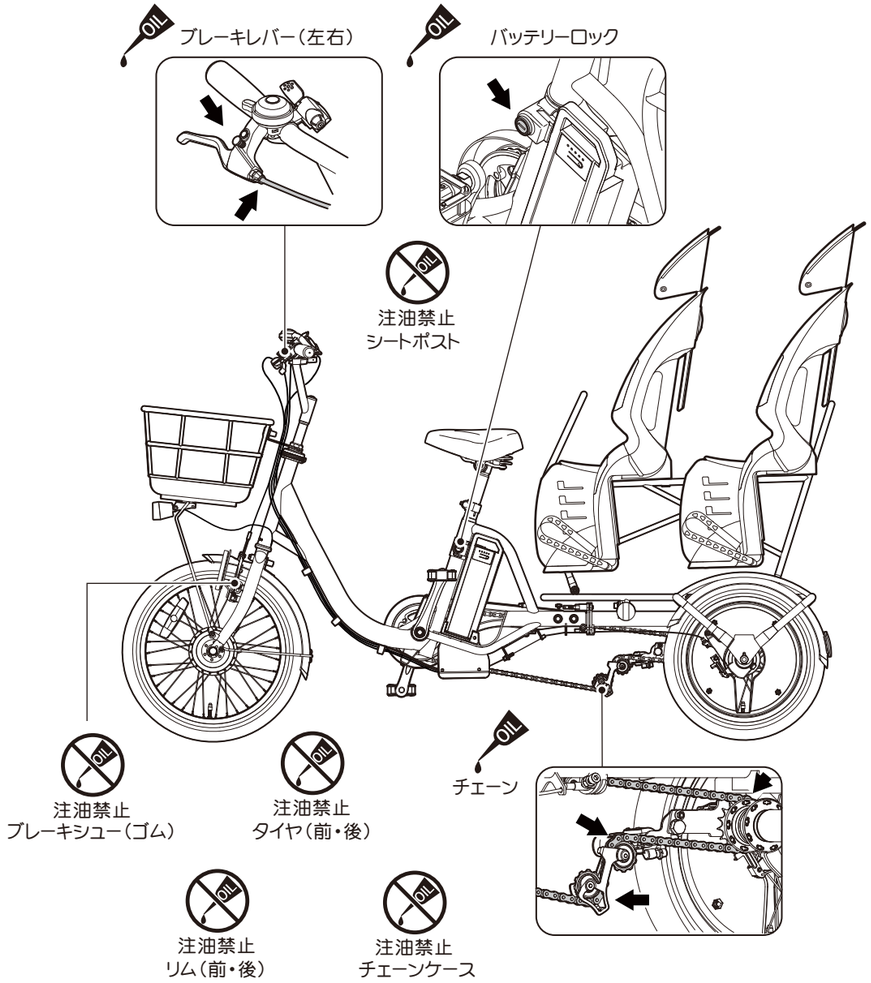


注油について

⚠ 警告

注油禁止箇所　注油禁止　この記号の箇所には絶対に「油」や「グリス」をつけないでください。

注油箇所　この記号の箇所に注油してください。（1~2ヶ月に1回程度）
注油は必ず、自転車用油を使用してください。



⚠ 注意	ローラーブレーキに注油が必要な場合は必ず販売店で行ってください。

運搬について

⚠警告

強制

自転車を運搬するときはバッテリーを外す

自動車への積載時など、運搬の際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてケガをする恐れがあります。

⚠注意

禁止

サドルを持ち上げて移動させない

サドルが破損し、ケガをする恐れがあります。

< おしらせ >

リチウムイオンバッテリーは危険物であるため、基本的には公共交通機関への持込や飛行機や船での輸送は禁止されています。ただし、輸送・公共交通事業者によっては、制限を設けた上で、輸送（輪行）可能な場合があるため、事前に利用しようとする事業者にお問い合わせください。

長期保管後の使用について

⚠注意

禁止

長期間の保管後に再び使用される場合は、必ず自転車販売店で点検・調整をしてから使用してください。

- ●ワイヤ類が固着してスムーズに動作せず、転倒につながりケガの原因になります。
- ●乗車せずに長期保管をした自転車は、稀にグリスが固まり、ペダルを回しても後車輪が回転しなくなることがあります。

※バッテリー　→詳細は37～38ページ参照

交換部品（補修部品について）

- ●車体をお買い求めいただいた自転車販売店にご相談ください。
- ●部品の生産終了が発生した場合は、可能な限り代替え部品を準備いたします。

廃棄について

- ●自転車を廃棄するときは、廃棄する地区の分別方法や回収ルールに従ってください。
- ●ご不明の場合は、お買い求めいただいた自転車販売店にご相談ください。

※バッテリー　→詳細は38ページ参照

譲渡について（他人に譲渡されるとき）

- ●この自転車を他人に譲るときは、本取扱説明書と品質保証書を一緒にお渡しください。
- ●防犯登録された自転車を譲渡するときは、防犯登録の抹消登録、再登録の手続きが必要です。
- ●保証につきましては本製品を最初に購入された方のみに有効です。譲渡された場合には保証は継続されません。

故障かなとおもったら

改善されない場合は使用を中止し、お買い上げいただいた自転車販売店にご相談ください。

症状	調べるところ	直し方
操作パネルの液晶表示部が点灯しない	バッテリーは確実に固定されていますか?	バッテリーを正しく取付けてください。
	バッテリーが充電されていますか?	バッテリーを充電してください。
アシストが切れたり入ったりする	コードが断線や損傷していませんか?	お買い上げいただいた自転車販売店にご相談ください。
アシストしない	電源スイッチがオフになっていませんか?	電源スイッチをオンにしてください。
アシストが弱い	タイヤの空気圧が減っていませんか?	タイヤに空気を入れてください(標準空気圧)
	タイヤがパンクしていませんか?	お買い上げいただいた自転車販売店または、自転車店に修理依頼をしてください。
	ペダルを踏みながら、電源スイッチを押していませんか?	電源を入れ直してください
充電できない 充電器の赤または緑ランプがゆっくりと点滅している	充電直後ではありませんか?	充電後すぐに充電しようとしても、充電しないことがあります。満充電からの追加充電はしないでください。温度が下がってくると充電を開始します。
	周囲の温度が高いところ、あるいは低いところで充電されていませんか?	バッテリー内部の温度が高いと、充電しないことがあります。涼しいところで充電してください。温度が下がってくると充電を開始します。温度が低い場合は室内などの暖かいところで充電をしてください。
	走行直後ではありませんか?	走行直後でバッテリー内部の温度が高いと、充電しないことがあります。温度が下がってくると充電を開始します。

症状	調べるところ	直し方
走行できる距離が短い	初めて使用するバッテリーではありませんか?	バッテリーを充電してください。
	57ページのような走行をされていませんか?	走行条件によって、走行できる距離は短くなります。
	タイヤの空気圧が減っていませんか?	タイヤに空気を入れてください。(標準空気圧)
	タイヤがパンクしていませんか?	お買い上げいただいた自転車販売店または、自転車店に修理依頼をしてください。
	長期期間使用しないで保管されていませんでしたか?	バッテリーは自己放電します。長期間保管するとバッテリー残量が減ります。
	前照灯が点灯されていますか?	前照灯を点灯した場合、走行できる距離が短くなります。異常ではありません。

■繰り返しの充電や長時間の使用でバッテリーの性能は低下します。

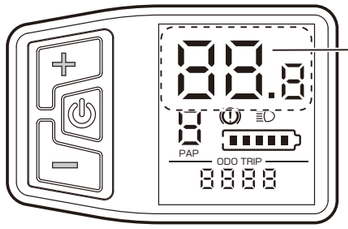
1回の満充電で走行できる距離が著しく短くなった場合(新品時の約 50%以下)は、新しいバッテリーに交換してください。

電源スイッチを押しても残量ランプが点灯しない	バッテリーが充電されていますか?	バッテリーを充電してください。
	バッテリーは確実に固定されていますか?	バッテリーを正しく取付けてください。
充電は完了したのに操作パネルの表示が100%にならない	バッテリーが高温、または低温になっていませんか?	バッテリー内部の温度が高いと、充電しないことがあります。涼しいところで充電してください。温度が下がってくると充電を開始します。温度が低い場合は室内などの暖かいところで充電をしてください。
バッテリーの取付けができない	バッテリー取付け部分にゴミなどの異物はありませんか?	異物を取り除いてから、バッテリーを取付けてください。

症状	調べるところ	直し方
充電中、異常を感じたら（異音・異臭・煙がでるなど）	→	電源プラグを抜いてお買い上げいただいた自転車販売店にご相談ください。
充電器やバッテリーが熱くなる	手で触れられないくらい熱いですか？	充電中は多少熱く（40℃～60℃）になりますが故障ではありません。手で触れられないほど熱いときは異常です。電源プラグを抜いてお買い上げいただいた自転車販売店にご相談ください。
ペダルに振動を感じる	→	停車中に足をペダルに乗せていると振動を感じる場合もありますが、モーター固有の特性です。故障ではありませんが、停車中はペダルに足を載せないようにしてください。

エラー表示コード

●操作パネルに次の表示が出たときは、内容を確認し、自転車販売店に修理をご依頼ください。



速度表示部にエラーコードが表示されます。

エラー表示コード	エラー内容	対処方法
01.E	メーター通信異常	操作パネルの異常、または通信異常です。
21.E	コントローラー異常	コントローラーの異常です。
28.E	センサー異常	通信異常です。
23.E	モーター異常	駆動ユニットの異常です。
24.E	モーター異常	駆動ユニットの異常です。

memo

マーク（剥がしたり、キズを入れたりしないようご注意ください。）

BAAマーク

一般社団法人自転車協会が認めた自転車安全基準に適合する自転車のみに貼付けされます。万が一製造上の欠陥により事故が発生した場合、製造業者または輸入業者の責任で補償を行います。事故が発生した場合は、自転車販売店にご連絡ください。

幼児2人同乗基準適合マーク

一般社団法人自転車協会が認めた幼児2人同乗用自転車適合基準に適合する自転車のみに貼付けされます。幼児を同乗される場合は、弊社指定のリヤチャイルドシートを確実に取付けてご使用ください。

型式認定済TSマーク（保険無し）

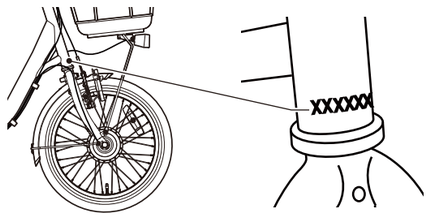
- 型式認定済 TS マークは、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にだけ表示することができるもので、法令の基準に適合することを明らかにするものです。
- このマークには、交通傷害保険は付帯していません。

点検整備済TSマーク（保険付）

- 工場出荷時に貼り付けている TS マークには、保険は付帯されていません。
- 傷害保険と賠償責任保険が付帯された保険付き TS マークが別にあり、お客様のご希望により貼り付けることができます。
- 保険付き TS マークは、自転車安全整備店（TS マーク取扱店）で点検整備を行い、基準に適合した自転車であることを確認した上で貼ることができます。
- 費用や保険内容など詳細は、お買い求めの自転車販売店もしくは自転車安全整備店（TSマーク取扱店）にご相談ください。

車体番号

防犯登録に必要で、数字と英字で表示しています。



防犯登録

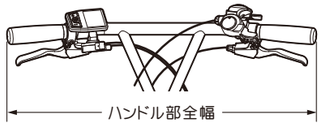
駅前等の放置自転車問題の改善や自転車の盗難を予防することを目的としており、万が一、盗難被害にあったり、遺失した場合に自転車が早期に発見され、戻ってきやすくなります。防犯登録は、自転車販売業者が、当該自転車の所有者を明らかにするために必要な事項を記載した登録カードを作成するとともに、登録証（シール）を当該自転車に貼付するシステムです。

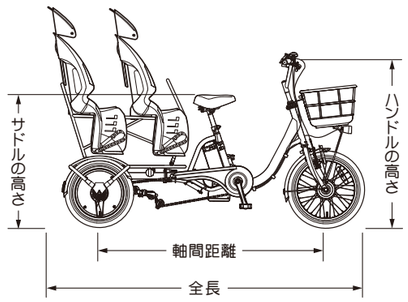
自転車保険加入

一部の地域や自治体では、自転車用対人・対物賠償保険の加入が義務付けられています。加入が義務付けされた地域で自転車を使用される場合は、必ず自転車保険に加入してください。その他の地域でも、万が一の事故に備え、自転車保険の加入をお勧めします。詳しくは、お買い求めいただいた自転車販売店または保険会社にご相談ください。

ETWB-001主要諸元表

ETWB-001		
大分類		三輪自転車
車種（小分類）		幼児２人同乗基準適合車
サイズ	全長	約 1,780mm（付属部品装着時）
	全長（幼児2人同乗仕様）	約 1,880mm（付属部品 +RBC-011DX-TW2 ×2 台 装着時）
	全幅（ﾊﾝﾄﾞﾙ部）	約 580mm
	全幅（後部）	約 580mm
	前後車軸間距離	約 1,330mm
	ｻﾄﾞﾙ高	約 720-860mm
	適用身長	139cm 以上（乗車適用身長は、両足裏全体が地面に着地できる身長を指します）
	ﾀｲﾔ	前：18×1.75 HE　　後：16×1.75 HE
重量	車両重量	約 37kg（ﾌﾛﾝﾄﾊﾞｽｹｯﾄ＋バッテリー）※ただし専用ﾘﾔｷｬﾘﾔを除く
	最大積載重量	約 95kg（乗員＋荷物）※ただし専用ﾘﾔｷｬﾘﾔを除く
	車両総重量	約 132kg（車両重量＋乗員＋荷物）※ただし専用ﾘﾔｷｬﾘﾔを除く
	車両重量（幼児2人同乗仕様）	約 47kg（ﾌﾛﾝﾄﾊﾞｽｹｯﾄ＋バッテリー＋専用ﾘﾔｷｬﾘﾔ＋ RBC-011DX-TW2×2 台）
	最大積載重量（幼児2人同乗仕様）	約 116kg（乗員＋荷物＋お子さま ×2 人）
	車両総重量（幼児2人同乗仕様）	約 163kg（車両重量＋乗員＋荷物＋専用ﾘﾔｷｬﾘﾔ＋ RBC-011DX-TW2×2 台＋お子さま ×2 人）
付属部品	ﾌﾛﾝﾄﾊﾞｽｹｯﾄ	FB-069K（内容量 22ℓ）
	専用ﾘﾔｷｬﾘﾔ	指定のリヤチャイルドシート取付け時のみ使用
制動装置	前輪	カンチレバー V 型
	後輪	ローラーブレーキ
変速機方式		内装 3 段変速
駆動方式		チェーン式
照明装置		バッテリー式前照灯
施錠方式		前輪錠
補助速度範囲		14km/h
1回の充電あたりでの走行距離		28km（JIS D9115：2018 に基づき測定／ｱｼｽﾄﾓｰﾄﾞ 3）
電動機	形式	直流ブラシレスモーター
	定格出力	250W
バッテリー	品番	XHB-BAD08
	種類	リチウムイオンバッテリー
	定格電圧	24V
	定格容量	8.5Ah
	重量	約 1.7kg
充電器	品番	KH-PCG06
	電源	交流 100 V（50Hz ／ 60Hz）
	充電時間	約 4.5 時間
	消費電力	58.8W
	重量	約 0.4kg





●乗車適応身長は、両足のつま先が地面に設置できる身長を指します。
●寸法や重量などの値は、部品のばらつきや仕様変更 により、誤差が生じる場合があります。
●仕様変更など により写真、イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
●この車種は、乗員体重を 65 kg で基本設計しています。従って、著しく超過した体重の方が常用された場合は、各部の消耗度合、劣化度合が大きくなります。走行距離も、『標準パターン』に対して短くなります。
※走行条件：還境温度は 20±5 ℃、無風の状態、バッテリーは新品 、バッテリライトは消灯状態、積載重量（乗員と荷物の合計）は 65 kg、路面は乾燥した平滑な路面、タイヤ空気圧は標準空気圧。

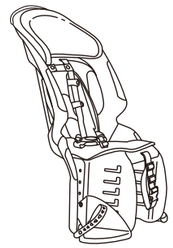
リヤチャイルドシートについて

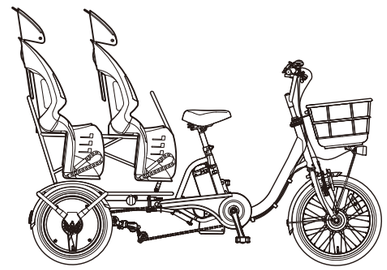
警告

●当社指定のリヤチャイルドシートを装着してください。取扱いについてはリヤチャイルドシートの取扱説明書の指示に従ってください。
●リヤチャイルドシートの組み付けは自転車販売店にご相談ください。
●ご使用になられるお子さまの年齢及び体格を確認し、指定範囲以外のご使用はしないでください。
●専用リヤキャリヤはクラス56です。お子さまとリヤチャイルドシートの合計重量が56kgを超えないよう充分に注意をしてください。

お子さまを2人乗せるとき

■ OGK リヤチャイルドシート
RBC-011DX-TW2（ふたごじてんしゃ専用リヤキッズシート） ※2台





お子さまを1人だけ乗せるとき

注意

●安全ベルト（BT-019KN）を別途お求めください。（品番：745D6102）
●取付けの際は専用リヤキャリヤの前寄りに取付けてください。
●取付け後はリヤチャイルドシートの機能が充分に使用可能か確認をしてください。

■ OGK リヤチャイルドシート
RBC-017DX（ヘッドレスト付リヤキッズシート“グランディア”） シリーズ
RBC-016DX（ヘッドレスト付ファーストリヤベビーシート“ハニカム”）
RBC-011DX（ヘッドレスト付コンフォートリヤキッズシート） シリーズ
RBC-015DX（ヘッドレスト付カジュアルリヤキッズシート） シリーズ
RBC-019（リヤキッズシート“ポポラ”） シリーズ
RBC-019DX（ヘッドレスト付リヤキッズシート“ポポラ モア”） シリーズ
RBC-011DX-TW ver.B（ふたごじてんしゃ専用リヤキッズシート）
RBC-007DX3（ヘッドレスト付デラックスリヤキッズシート） シリーズ ※生産終了
RBC-009DX3（ヘッドレスト付リヤキッズシート） シリーズ ※生産終了
RBC-009S3（アクティブコンパクトリヤキッズシート） シリーズ ※生産終了

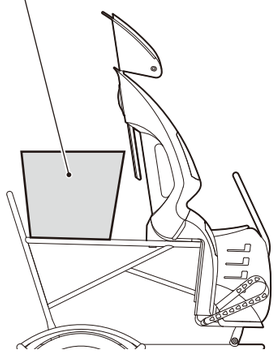
OGK リヤチャイルドシート WEBサイト→

専用リヤキャリヤへのバスケットの取付けについて

専用リヤキッズシートを1台のみ装着時には、指定のバスケットを専用リヤキャリヤに取付けが可能です。

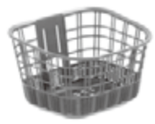
⚠ 注意	●取付けには「ふたごじてんしゃ専用 FBリヤキャリヤ取付け金具セット <品番:E0759200>」を別途お買い求めください。 ●使用はふたごじてんしゃ専用リヤキッズシート(RBC-011DX-TW2)装着時に限ります。 ●バスケットは専用キャリヤの後ろ側に取付けてください。

バスケットの向きは前後どちら向きでも取付けが可能です。



適用バスケット　耐荷重:5kgまで

FB-037K(藤風ファッションフロントバスケット)
目安サイズ(外寸)／幅400×高240×奥行310 (mm)
カラー／ブラック、こげ茶　重量／約650g



FB-039K(藤風小さめフロントバスケット)
目安サイズ(外寸)／幅340 ×高さ210 ×奥行290(mm)
カラー／ブラック、こげ茶　重量／約550g
※在庫終了次第廃盤となります。

ふたごじてんしゃ専用 FBリヤキャリヤ取付け金具セット <品番:E0759200>

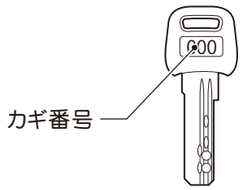
※適用バスケットに付属の取付金具セットは使用しません。紛失しないよう大切に保管してください。

スペアキーの購入方法

スペアキーは下記で取扱っております。ご入用のお客様は直接お申し込みください。

有限会社J&C
スペアキー直送サービス

https://j-cls.stores.jp



【重要】カギ番号について
カギ番号がわからないとスペアキーをお送りすることができません。
※カギを全て無くされた場合は、自転車をご購入された時の書類にお控えがないかご確認ください。

<免責事項>
有限会社J&Cとお客様とのやりとりにおいて生じた事故等については、その理由を問わず、当社は一切の損害賠償責任を負いかねます。
予めご了承ください。

memo

品質保証規定

■本品の品質保証期間は1年です。正常な使用状態において万一故障した場合は、ご購入日より1年間無償で修理をさせていただきます。ご購入の際の、自転車販売店の領収書（レシート）がご購入日の証明となりますので、大切に保管をお願いいたします。
■故障の際はお買い上げいただいた自転車販売店、または弊社へ本保証書を添えてご相談ください。（自転車販売店にご持参いただく際の交通費等の諸費用は、お客様にてご負担願います）

保証の適用除外
●品質保証書のご提示のない場合、または領収書（レシート）がない場合。
●製品の故障に起因する付随的損害（営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等）については保証できません。
●本保証において、弊社のお客様への保証手段は、弊社の選択による製品の修理、または交換に限られるものとします。本品が製造中止となった場合等には、他の同等品をご案内させていただく場合があります。
●修理交換において保証期間の延長はございませんので、予めご了承ください。
●本保証書は再発行しませんので、大切に保管してください。
●本保証書は、本書に明示した期間、条件に基づき保証修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
●本保証書に示す条件以外の費用等。
●上記以外に取付取扱説明書に記載の警告・注意事項に反した使用をされたとき。
次に示すものに起因する故障は保証修理の対象となりません。（使用者負担になります。）
ア.使用者の使用上の不注意によるもの。
イ.衝突、転倒、道路の段差等に乗り上げ、または溝等に落ちて生じたもの。
ウ.法令の違反行為によって生じたもの（最大積載量オーバー、定員オーバー等）。
エ.保守、整備の不備または間違いにより生じたもの。
オ.当社が指定する定期点検整備を実施しなかった場合。
カ.使用者が構造、機能を改造または変更したため生じたもの。
キ.酷使または一般に自転車が走行しない場所での走行（道のない山岳ツーリング、道のない土手の傾斜等）により生じたもの。
ク.レンタサイクルなど不特定多数で使用される場合。
ケ.戦争・暴動・騒じょう・地震・噴火・水災（台風、洪水、豪雨、津波など）・落雷、火災、水害、公害、盗難その他人災、天災、地変によって生じた損壊。
コ.手入れ不充分、保管場所の不備及び時の経過により生じた塗装面、メッキ面、その他これに類する不具合及びプラスチック部品等の自然退色。
サ.部品の通常の摩耗または疲労と認めたもの（タイヤ、チューブ、ブレーキ用ゴム等のゴム類やチェーン）。
シ.くぎ、ピン、ガラス、切削くず、鋭利な石ころ等で生じるパンク。
ス.一般に機能上影響のない感覚的現象（音、振動等）。
セ.本保証書に示す条件以外の費用等。
ソ.この保証書は盗難保険ではありません。盗難保険及び防犯登録については自転車販売店にご相談ください。

◇保証修理を受けるための条件及び手続き
保証修理を受けるためには次の事項をご了承願います。
1. 購入証明について
・お買い上げいただいた自転車販売店にて、ご購入時の領収書またはレシートをお受取りください。領収書またはレシートなどの購入証明の添付のいずれもない場合や、正規自転車販売店以外でのご購入の場合は保証対象外となります。
・保証修理を受ける場合、本保証書と製品をご持参ください。
・本保証書の提示がないと保証修理は受けられません。また、本保証書の字句等を変えた場合は無効となります。
・ご贈答、転居及び他に譲渡する場合についてはお買い上げいただいた自転車販売店にご相談ください。
・お買い上げの自転車は初回点検（2ヶ月以内）その後半年ごとの定期点検を受けてください。
・定期点検を受ける際には自転車と定期点検整備チェックリストを提示してください。定期点検、整備は有料です。
・この保証書は日本国内で使用される場合のみ適用されます。海外に持ち出す場合は、その時点で無効となります。
・保証修理に関するお問合せは、お買い上げいただいた自転車販売店、または弊社へご相談ください。
・修理に関して出張修理の依頼を受けた時は、出張費を請求する場合があります。

2. 保証対象外部品（次に示す物の交換修理は、使用者負担となります。）
バスケット等の付属品、ブレーキワイヤー、ギヤチェンジ用ワイヤー、取付け金具類、コード類、電装品、電球、レンズ、チェーン、その他「コ・サ」の項の摩耗品及び疲労品、使用者がご自分で取付けた部品。

●保証期間経過後の修理などについてご不明な点はお買い上げいただいた自転車販売店または、相談窓口（品質保証書記載の住所）にご相談ください。
●部品の保管期間
保証期間経過後でも性能を維持するための補修部品の情報は、お買い上げいただいた自転車販売店、または製造業者にお問い合せください。尚、新型が売り出された場合は、代替え品にて対応させていただいておりますので予めご了承ください。
●「一般社団法人自転車協会から利用者の皆様へのお知らせ」
BAAマークが貼付された自転車は、安全で長持ちする自転車を目標に、一般社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は、製造・輸入事業者の責任で補償致します。当会は直接利用者の皆様への補償を致すものではありません。

<自転車販売店様へお願い>

●品質保証書を発行する際は、保証書の各項目をご記入お願いします。
●（控）は貴社の控えとして、必ず大切に保管してください。（保存期間は10年です）
●（保証書）の自転車販売店名欄に貴社名を記入捺印してお客様に必ずお渡しください。
●ふたごじてんしゃの消耗度合いは、お客様の使用環境や保管状態、使用頻度によって異なります。耐用年数について一概にご案内することは厳しいところです。予めご了承ください。
●専用部品につきましては、補修用として自転車の生産終了後、8年間の保有を予定しております。また、既製品で流用可能な場合はそちらを案内させていただきます。

保証書貼付け位置

点検・整備チェックリスト

自転車販売店にチェック・記入を依頼してください。定期点検・整備の料金は、お買い上げの自転車販売店までお問い合わせください。

✓:異状無し　A:調節、注油　△:修理　×:交換　C:掃除その他　—:装着されていない部品

点検の箇所	点検項目	販売時	1回目 2ヶ月	2回目 6ヶ月	3回目 1年	4回目 1年半	5回目 2年	6回目 2年半	7回目 3年
フレーム・前ホーク	変形、折損、ひび割れは無いか								
	ヘッド、ハンガー小物にガタツキや摩耗は無いか								
	取付けネジの緩みは無いか								
ハンドル	固定は確実か、高さ、ハンドルステムの挿入量は適正か（締付け推奨トルク 18N・m）								
	変形、折損、軽く回転するか								
グリップ	ひび割れ、挿入不足は無いか								
	回転は無いか								
前車輪旋回抑制機構	作動は正常か								
フロントバスケット	変形、折損、ひび割れ、ガタツキは無いか								
	取付けは適正か								
どろよけ	変形、ガタツキ、曲がりは無いか								
	取付けは適正か（締付け推奨トルク 3～5N・m）								
	車輪に当たっていないか								
	どろよけと車輪の隙間に不要なモノが挟まっていないか								
スイングストッパー	前フレームの作動は適正か								
	操作レバーの取付けは適正か、作動は正常か								
	変形、ガタツキは無いか								
	スイングストッパーを使用しているときは前車体が後車体に対して大きく傾いていないか								
車輪（前後）	固定は確実か、ガタツキは無いか								
	フレーム、前ホーク、どろよけ、キャリヤに接触していないか								
	ハブナットとボルトの緩み、玉押しのガタツキは無いか（締付け推奨トルク 前:35～40N・m 後:30～35N・m）								
	フレーム、前ホーク、どろよけ、キャリヤに接触していないか								
タイヤ	切傷、摩耗、ひび割れは無いか								
	空気圧は適正か								
	タイヤに異物は付いて無いか								
リム	変形、振れ、摩耗は無いか								
スポーク	緩み、変形、折損、外れは無いか								
クランク	亀裂、曲がり、変形は無いか								
	ガタツキは無いか、締め付けは充分か（締付け推奨トルク 40～50N・m）								
トルクセンサー	ガタツキは無いか、緩みは無いか（締付け推奨トルク 35N・m）								
ペダル	固定は確実か、取付部（クランク側）にバリは無いか（締付け推奨トルク 35～40N・m）								
	回転は正常か、変形、カシメやネジの緩み、ガタツキ、折損は無いか								
チェーンケース	固定は確実か、変形は無いか（締付け推奨トルク 2～3N・m）								
	チェーン、クランク、ギヤとの接触は無いか								

点検の箇所	点検項目	販売時	1回目 2ヶ月	2回目 6ヶ月	3回目 1年	4回目 1年半	5回目 2年	6回目 2年半	7回目 3年
ブレーキ	ブレーキレバーはしっかり固定されているか（左右）								
	効き具合は適正か（左右）								
	レバーの引き代に余裕はあるか（左右）※約15mm								
	ワイヤ類に錆びやほつれは無いか（左右）								
	ブレーキシューがリム側面に沿ってよく固定されているか								
	前車輪のブレーキシューは車輪回転時にリムへの接触が無いか								
	ブレーキのゴム類（ブレーキシュー、パッド、ライニング）の減りは無いか								
	パーキングストッパーの作動は正常か								
変速機	作動は確実か								
チェーン	油切れ、錆、たるみは無いか、ギヤとの噛み合わせは適正か								
	ギヤとチェーンに異物が付着して無いか								
サドル	固定は確実か、高さ、シートポストの挿入量は適正か								
	ガタツキ、損傷は無いか								
前照灯	点灯、照射は正常か、破損は無いか、コード切れは無いか								
	取付けネジの緩みが無いか（締付け推奨トルク 3～3.5N・m）								
リフレクタ	ヨゴレ、ガタツキ、破損は無いか								
	取付け角度は適正か								
	取付けネジの緩みが無いか（締付け推奨トルク:リヤサイドリフレクタ 2～3N・m リヤリフレクタ 3～5N・m）								
ベル	作動は正常か、変形、緩みは無いか、よく鳴るか								
馬蹄錠	作動は正常か								
駆動アシストユニット関連	駆動アシストモーターからのグリス漏れ、異音は無いか								
	電気配線の接続部の緩みと損傷は無いか								
	各部の取付け状態と作動は正常か								
	バッテリー端子のヨゴレは無いか								
	バッテリーの取付状態とロックの作動は適正か								
その他	各部のネジの緩み、損傷は無いか								
注油箇所	チェーン、チェーンテンショナー、ブレーキレバー、バッテリーロックキー穴、馬蹄錠キー穴、ローラーブレーキ								

リヤチャイルドシート（※取付けられている場合）	専用リヤキャリヤと確実にネジで固定されているか								
	安全ベルトは正しい位置につけられているか								

実施店舗	実施日	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	
車体ナンバーを転記してください。（ヘッドパイプ下端に刻印されています。） 品番 ETWB-001 車体ナンバー	実施者	㊞	㊞	㊞	㊞	㊞	㊞	㊞	

品質保証及び自転車受領確認書は84ページに添付されております。

家族の移動創造企業へ

オージーケー技研株式会社

〒577-0066 東大阪市高井田本通6丁目2-32 電話：06-6782-4353（代）

20230905